

(2) 張鼓峰事件

261

昭和13年7月20日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

張鼓峰からのソ連軍撤退による原状回復方リ

トビノフへ申入れについて

別電

昭和十三年七月二十日發在ソ連邦重光大使よ
り宇垣外務大臣宛第九三二號

右申入れ

モスクワ 7月20日後發

本省 7月21日前着

第九三二號(大至急)

貴電第四〇〇號ニ關シ

十九日以來「リトヴィノフ」ニ會見申入レ漸ク本二十日午

後二時面會ノコトトナレリ其ノ際大體別電第九三二號ノ通

リ申入ルル筈右不取敢

滿へ轉電セリ

(別電)

第九三一號(大至急)

モスクワ 7月20日後發
本省 7月21日前着

七月十一日朝鮮及蘇領沿海州ト境ヲ接スル滿領ニ於テ軍事
上有力ナル地點張鼓峰ヲ蘇聯軍隊ガ突如占領シテ陣地ヲ構
築セルコトニ付テハ同月十五日西代理大使帝國政府ノ訓令
ニ依リ蘇政府ニ對シ抗議ヲ申入レ蘇兵ノ至急撤退ヲ要求セ
リ之ニ對シ「ストモニヤコフ」氏ハ蘇聯政府ヲ代表シ同日
右地點ハ蘇側ノ有スル材料及地圖ニ依レバ蘇聯領土ナルガ
故ニ右日本側抗議ハ理由ナシトテ右要求ヲ拒絕セリ

日本政府ハ右蘇側ノ主張ヲ慎重研究シタル結果本使ニ對シ
新ニ訓電シ今日ノ申入ヲ爲サシムル次第ナリ

「同地方國境線ヲ規律スル支那及帝政露國トノ間ノ諸條約
ノ材料ニシテ現ニ滿洲國政府ノ有スル確實ナル資料ニ基
キ且又我方ノ所有スル舊帝政時代ノ資料ニ依テ詳細考究
シタル所ニ依レバ長池西方二位スル問題ノ地點ハ全然滿
洲國領土ナルコト極メテ明瞭ナリ

他方「ストモニヤコフ」氏ノ西代理大使ニ提示セラレタ
ル琿春界約ナルモノノ條文ニ付テ見ルモ國境ハT字牌ヨ

リ西北シ嶺ヲ越エテ長池ニ至リ長池ノ西側ヲ經テ沙岡子ノ北ニ到リ此處ニ標識ヲ樹ツルコトナリ即チ長池ノ西岸ヲ以テ境ト爲スコトナリ居レリ唯今日迄一般ニ公表セラレタルコトナキ蘇聯政府ノ有スル地圖ノミニ於テ右國境線ハ之ト異ル記入ヲ見居ルガ如シ更ニ又從來永年間滿洲人民ハ右張鼓峰上ニ於テ毎年六月及九月宗教上ノ儀式ヲ行ヒ來リタル地方的慣習存在ス

以上ノ如ク問題ノ地點ハ滿洲領ニ屬スルコトハ疑ナキモノニシテ日本軍ハ滿洲國ノ共同防衛ノ責任ヲ有スル關係上遲滞ナク必要ナル行動ヲ執リ得ベキ次第ナリ

二、蘇側ハ常々滿蘇兩國ノ國境靜謐ニ關心ヲ表示セラレ國境方面ノ現狀維持ヲ主張セラレタルコト一再ニシテ止マラズ然ルニ今同突如トシテ重要ナル地點ヲ武力ヲ以テ占領セラレタルコトハ正シク國境方面ノ現狀ヲ破壞スルモノナリ是レ明カニ日本軍ニ對スル一種ノ挑發行爲ト見ラルベキモノニシテ右ハ兩國ノ關係ガ必シモ満足ト見ラレザル今日一層重大ナル行動ト言ハザルベカラズ右ノ狀況ニ於テ日本軍隊ハ隱忍自重シテ蘇側ノ善處ヲ注視シ居ル譯ナルガ前述ノ通り事態ニ對シ必要ナル措置ハ何時ニテモ

執リ得ルト信ジ居ルモノナリ

三、以上ノ如キ蘇側ノ軍隊ニ依ル直接行動ハ此ノ際重大ナル責任ヲ伴フモノナルコトヲ了解セラレ今同至急國境ノ原狀ヲ回復スル手段ヲ執ラレ度シ尤モ本使ニ於テハ此ノ際日滿側ノ有スル資料ヲ以テ國境線ノ劃定セラルコトヲ期待スルモノニアラズ其ノ確定ハ他日双方ノ有スル資料ヲ研究ノ上協同シ決定セラルベキモノト思考シ居ル次第ナリ

今日ノ要求ハ單ニ至急張鼓峰方面占據ヲ撤シ七月十一日前ノ原狀ヲ回復シテ此ノ方面ノ國境ノ靜謐ヲ回復スルコトヲ要求スルニ在リ帝國政府ハ蘇政府ニ於テ右ニ付充分御考慮アランコトヲ要望スルモノナリ

滿ヘ轉電セリ



262

昭和13年7月20日
在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

日本側申入れに対し脅迫は効果なしとするリ
トビノフの強硬姿勢について

第九三三號(大至急)

貴電第四〇四號ニ關シ(張鼓峰國境事件)

モスクワ 7月20日後發
本省 7月21日前着

二十日午後二時ヨリ往電第九三一號ノ趣旨ヲ以テ繰返シ説得ニ努メタルモ「リトビノフ」ハ地圖ヲ盾トシ毫モ讓歩ノ色ヲ示サズ最後ニハ脅迫ハ莫斯科ニテハ效ナシ等ト述べ蘇側ノ態度ノ鞏固ナルヲ示セリ
滿、在歐米各大使、壽府へ轉電セリ

263

昭和13年7月22日 宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

張鼓峰西側斜面からの撤兵につきリトビノフ
へ要求方訓令

本省 7月22日發

第四〇九號(大至急)

貴電第九三九號ニ關シ

我方トシテハ國境線ニ關スル從來ノ主張ハ堅持シツツモ此ノ際ハ先ヅ以テ事件前ノ原狀回復ヲ要求スル次第ノ處假リ

ニ「ストモニアコフ」ガ西ニ示セル地圖ニ依ル線(張鼓峯ノ頂キヲ走ル線ト認ム)ヲ國境線トスルモ彼等ハ現ニ該線ヲモ超エ西側ノ斜面ニ陣地構築ヲ爲シツツアルコトノ不都合ナルハ蔽フ可ラズ何ヲ措キテモ右ハ今直ニ撤收セシムルコトヲ要ス

就テハ貴使ハ至急「リトヴィノフ」ニ御面會ノ上國境線ニ關スル我方從來ノ主張ニ變リナキ處此ノ際ハトモ角モ速ニ原狀回復ヲ要求スル趣旨ヲ述べタル上假リニ國境線ガ「ソ」側ノ主張スル如クナリトスルモ現ニ「ソ」側ハ張鼓峯ノ西斜面ニ兵ヲ入レ塹壕ヲ掘リ鐵條網ヲ張ル等ノ陣地構築作業ヲ爲シ之ニ接近スル日滿官憲ヲ狙撃スル如キ明確ナル滿領侵犯ヲ爲シ居リ右ハ日滿側第一線ヲ痛ク憤慨セシメ居ル一原因ナルニ付此ノ際急速ニ國境方面ノ緊張ヲ緩和シ本件ノ穩便ナル處理ヲ計ル爲ニモ先ヅ以テ峯ノ頂及西側斜面ヨリ急速撤兵センコトヲ要求セラレ結果回電アリ度

尙二十日ノ貴使「リトヴィノフ」十五日ノ西「ストモニア」會見ニ關スル電文ノ範圍ニテハ先方ハ張鼓峯ノ分水嶺ヲ以テ境ト爲ストハ言ハズ問題ノ地點ハ「ソ」領内ナリト言ヒ居ル模様ナルガ十五日「ス」ガ西ニ地圖ヲ示シ事件發生地

ノ「ソ」領内ナルコト明白ナリト主張セル際又ハ其ノ他ノ機會ニ分水嶺ナル言葉ヲ用ヒタリトセバ峯ノ西斜面ニ「ソ」兵ガ陣地構築ヲ爲シ居ル不都合ヲ説明スルニ一層好都合ナルニ付右先方ノ言ヲ逆ニ御利用アリ度

264 昭和13年7月22日 五相會議決定

「張鼓峰事件處理ニ關シ採リタル手續」

張鼓峰事件處理ニ關シ採リタル手續

昭和十三年七月廿二日

五 相 會 議 決 定

一、萬一二備フル爲準備ヲ行ヒタリ
二、準備シタル兵力ノ行使ハ關係當事者間協議ノ後 大命ニ依リ發動スルモノトス

265 昭和13年7月23日 在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛（電報）

張鼓峰事件における日本側態度につき独伊大使館等へ説明について

モスクワ 7月23日前発
本 省 7月23日前着

◎ 第九五六號（至急）

張鼓峰事件ニ付テハ獨、伊大使館（何レモ大使不在）ニ成行ヲ的確ニ知ラシメ置クコト然ルヘシト存シ夫々館員ヲ派シテ説明セシメ置キタリ（他大公使館ノ問合せニ對シテモ同様）
LLLLニ對シテハ蘇聯トノ關係ニモ鑑ミ特ニ十分了解セシメ蘇側ニ對シテモ適當ノ壓迫ヲ爲サシムル爲ニ二十二日同大使ト會見我要望ノ極メテ妥當ニシテ且強硬ナル所以ヲ説明シ置キタリ

尙其ノ際歐洲ノ形勢ニ言及本使ノ問ニ對シ同大使ハ致國問題ニ付テハ八月前半ハ自分トシテ非常ニ暗ク豫想シ居レリ
英佛ヨリ「ブラーグ」ニ壓力ヲ加ヘ居ルモ本日ヨリ始マル致國議會ハ「スデット」獨逸人ヲ満足セシメ得サルヘク又蘇聯モ何時モト異リ餘程眞劍ニ力ヲ入ルル模様ナリ云々ト述ヘ戰爭ハ素ヨリ何人モ希望セサル所ナルモ茲數週ノ經過ハ案セラルル由ヲ語レリ

在歐米各大使、壽府へ轉電セリ

266

昭和13年7月23日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

張鼓峰事件を日ソ全面的衝突に導く意図はソ

連側になく他方日本側の消極的態度は日中間

題等に悪影響を及ぼすとの観測について

モスクワ 7月23日前発

本省 7月23日前着

第九五七號(至急)

張鼓峰事件ハ「リュシユコフ」逃亡ニ鑑ミ國境警備ヲ嚴重
ニスヘシトノ一般的中央ノ指令ニ基ク出先官憲ノ處置ト認
メラレ「リトヴィノフ」モ日本ノ國力ヲ輕視シ強硬ナル態
度ニ出テツツモ他國ノ領土ヲ侵スノ意ナキコトヲ繰返シ居
リ此ノ事件ヲ以テ全面的衝突ニ導クカ如キハ少クトモ中央
ニ於テ致國問題等ヲ控ヘ居ル際考ヘ得サル様ニ判斷セラル
(致國問題ノ爲ニ東方日本ノ出方ヲ試ミタルモノト見ル者
アリ)而シテ他方本事件ヲ此ノ儘有耶無耶ニ葬ル時ハ日本
ノ權威ヲ損シ恐ラク支那問題ニ對シテ大ナル惡影響ヲ及ホ
スヘキハ勿論(本事件ヲ以テ支那ノ爲ニ對日牽制ノ目的ヲ
有スト見ル向モアリ)對露關係ニ於テ國境問題等ノミナラ

267

昭和13年7月23日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

ソ連側への妥協的提案は控え現状のまま形勢
を見送るべしとの意見具申

モスクワ 7月23日前発

本省 7月23日後着

第九六三號(至急、極秘)

貴電第四〇九號ニ關シ

本使トシテハ多少ナリトモ妥協ノ餘地ヲ存セント考ヘ折衝
ニ努メタルモ「リトヴィノフ」ハ既ニ我足下ヲ見透シテカ
終始拒否一點張ニテ何等ノ餘地ヲ示サズ往電第九三四號ノ
如キ會談ニ終リタル次第ハ御承知ノ通りニシテ此ノ際御訓
令ノ如キ申入ヲ爲スモ先方ハ愈我方ニ弱味アリト看做シ益
々付ケ上リ我方ノ威信ヲ失墜スル結果トナルヲ惧ル冒頭貴

電ノ通り我方トシテハ國境線ニ關スル從來ノ主張ハ之ヲ堅持シ原狀回復ヲ要求スル建前ナルノミナラズ往電第九五六號申進ノ次第モアリ此ノ際現狀ノ儘暫ク不氣味ナル暗黙ノ威壓ヲ持續シツツ形勢ヲ見送ルコト却テ賢明ナラズヤト思考セラル

268 昭和13年7月30日

沙草坪での軍事衝突に関する情報部長談話

沙草坪事件ニ關スル情報部長談話 (七月三十日)

在京「ソ」聯代理大使「スメターニン」ハ三十日午前十一時堀内次官ヲ來訪シ二十九日午後四時日滿部隊ハ越境シ哈桑湖ノ北方ニ在ル二高地ヲ占據シ様トシタノテ「ソ」聯國境警備隊ハ之レト交戦シ日滿部隊ヲ滿領内へ後退セシムルノ余儀ナキニ至ラシメタカ其際双方二死傷者ヲ生シタトノ情報ニ接シタ「ソ」政府ハ右ニ對シ抗議スルト共ニ本事件ニ對スル責任ハ日本政府ニ在リト認ムル旨申出タ
依テ堀内次官ハ滿蘇國境方面越境事件ニ關スル蘇側申出カ誤レル情報ニ基クコト甚タ多イ様テアルカ本件ノ如キモ日

本政府ノ有スル情報ハ全然之レト逆テ二十九日午前九時半頃「ソ」兵カ沙草坪ノ西南方約千米突ノ地點ニ不法越境シ陣地ヲ構築ニ着手シタノテ我方守備隊ハ之レヲ撃退シタ旨現地ヨリ報告ニ接シテ居ル、日本政府ハ右「ソ」兵ノ不法越境ニ對シ最モ嚴重ニ抗議スルト共ニ事件發生ノ重大責任ハ全然「ソ」側ニ在ルコトヲ申入ルモノテアツテ今日「ソ」側申出ノ抗議ハ我方トシテ受理スル限りテナイト突跳ネタ

編注 本文書は、昭和十三年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十七輯より抜粋。

269 昭和13年8月3日 宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

ソ連側と至急会見の上外交交渉による解決へ 向け誘導方訓令

本省 8月3日發

◎ 第四三九號(極秘、大至急)

往電第四二七號ニ關シ

貴電第一〇〇九號及一〇一四號ニ依レハ貴使ニ於テ未タ「リ

トヴィノフ」ニ會見ノ運ヒニ至ラサルモノト認メラルル處
 第一線ニ於テハ政府ノ不擴大方針ヲ遵守シ眞ニ隱忍自重ヲ
 續ケ「ソ」側飛行機ノ爆撃ニ對シテモ我飛行機ノ出動ヲ差
 控ヘヒタスラ外交交渉ノ推移ニ期待シ居リ關係諸方面ニ於
 テモ貴大使ノ折衝ニ期待ヲカケ居ル實狀ナリ就テハ至急
 「リ」又ハ「ストモニヤコフ」御會見ノ上累次ノ電訓ニ依
 ル抗議ヲ申入ルルト共ニ往電第四二九號ノ趣旨ニ依リ可然
 局面轉廻ノ外交交渉ニ誘導方御配慮アリ度
 尙一日總理、外、陸、海、藏五相間ノ話合ニ於テ決定セラ
 レタル事件ノ處理方針往電合第二四五〇號ノ通ナリ

270

昭和13年8月3日

宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

両軍の大規模衝突回避のためソ連側に対し大 至急停戦提議方訓令

本省 8月3日発

第四四七號(極秘、大至急)

往電第四三九號ニ關シ

其ノ後現地ノ事態ハ双方相當兵力ヲ増強對峙シ何時大規模

ノ衝突トナルヤモ知レザル實狀ニテ甚ダ急迫セル關係ニ在
 ルニ付此ノ際急速ニ双方戰鬪行為停止方ヲ提議スル必要ヲ
 認メ目下(三日午后九時)「スメタニン」ヲ呼出中ナルガ何
 分緊急ヲ要スルニ付貴方ニ於テモ至急外務當局ニ御會見ノ
 上兎ニ角此ノ際急速ニ戰鬪行為(飛行機ニ依リ攻撃ヲ含ム)
 停止方ヲ提議セラレ「ソ」政府ニ於テ之ニ同意ナルニ於テ
 ハ我方ハ其ノ具體的方法ヲ協議スル用意アル旨ヲ申入ラレ
 度尙右方法トシテハ「ソ」軍ハ長池東方高地(複數)ヲ貫ク
 線ニ後退シ日本軍ハ張鼓峰西側高地及沙草峰西側無名池西
 南側高地ヲ貫ク線(七月三十日ノ態勢)ニ後退スル案ヲ考慮
 シツツアルニ付御含ミ迄

271

昭和13年8月4日

宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

堀内次官より在本邦ソ連大使に対し戰鬪停止を 提議シソ連政府の回答取付け方要請について

本省 8月4日発

第四四九號(極秘、大至急)

往電第四四七號ニ關シ

四日十時半堀内次官「スメタニン」ヲ招致シ日本政府ノ名ニ於テ双五ノ戰鬪行爲停止ノ提議ヲ爲シ直ニ本國政府ヘ傳達ノ上回答取付方ヲ求メタル處「ス」ハ日滿兩國ノ軍隊カ「ソ」領内ヨリ撤退スルニ於テハ右提議應諾可能ト考フト答ヘタルニ付次官ハ日滿側ハ「ソ」領ニ侵入シ居ラサルカ此點ニ付議論ヲ爲シ居ル時機ニ非ス逼迫セル事態ヲ急速ニ緩和スルコトカ緊要ナルニ付帝國ハ此ノ提議ヲナセルモノニテ「ソ」政府力之ニ同意ノ意嚮アルニ於テハ直ニ戰鬪行爲停止ノ具體的商議ニ入ル用意アリ至急本國政府ノ回答取付ヲ求ムル旨述ヘタルニ「ス」ハ會談ノ經過ハ早速莫斯科ヘ報告スヘシト言ヘルニ付次官ヨリ單ニ報告ノミナラス回答ヲ急速取付アリ度ト重ネテ申述置タル趣ナリ冒頭往電ト共ニ滿ヘ轉電セリ



272 昭和13年8月4日 在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

張鼓峰事件に関するソ連側発表振りにについて

モスクワ 8月4日前發
本省 8月4日後着

第一〇二六號

張鼓峰事件ニ關シ往電第一〇〇七號、第一〇一八號及第一

〇二二號等蘇側発表ヨリ見ルニ左ノ通り

一、蘇領ニ四軒侵入セル日本軍隊ハ蘇兵ニ依リ蘇領外ニ撃退セラレタリトカ日本側死傷者ハ四百ニシテ蘇領ニ遺棄セルモノハ大砲五門、機關銃十四挺、小銃百五十七挺ナルニ反シ蘇側ノ損失ハ戦死十三名、負傷五十五名、「タンク」一臺、大砲一門、偵察機ヨリ落下傘ニテ飛降りタル飛行士一名ナリトカ虚偽ノ報道ヲ爲シ國民ノ前ニ蘇軍ノ勇敢サヲ誇示スルト共ニ自ラ慰メントスルノ宣傳ヲ行ヒ居リ

二、蘇飛行機ハ滿鮮領土ヲ爆撃セズトノ虚偽ノ報道ヲ爲シ問題ニ關係ナキ地區ヲ爆撃セル結果對外的ニ惡影響ヲ招クコトヲ惧ルルト共ニ事件不擴大ノ方針ヲ示シ居ルモノノ如シ

三、本日ノ「タス」發表中「日本軍部ハ日本外交官等ノ挑發行爲ニ激勵セラレ居レリトノ說アリ」トアル處右ハ蘇側ノ想像ニ基ク日本内部攪亂ノ手ニテ例ノ遣口ナルニ鑑ミ此ノ點各方面共注意スルコト肝要ナリト思考ス

四、事件發生地附近ノ國境圖ニ關シテハ當方トシテハ昨年乾

岔子事件ノ場合ト同様未ダ曾テ發表セラレタルコトナキ
地圖ハ突發事件ニ關シ第三國タル日本ニ對シテハ對抗力
ヲ缺クトノ趣旨ヲ以テ終始シ來リタル次第ナル處此ノ點
ハ將來國境確定ノ際ニハ重要點トナル譯ナルガ本日ノ各
新聞ニ署名入ノ地圖ノ寫眞ヲ掲ゲ宣傳シタリ
在歐米各大使、壽府、滿へ轉電セリ



273

昭和13年8月4日
在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

日本側停戰提議に應じるに当たつては張鼓峰
からの日滿軍引揚げと攻撃中止が前提である
とするリトビノフの回答について

モスクワ 8月4日後発
本省 8月5日後着

第一〇三二號(大至急、極祕)

貴電第四五一號ニ關シ(戰鬭行為停止提議ニ關スル件)

四日午後一時ヨリ會見貴電ノ趣旨ヲ申入レタリ「リトヴィ
ノフ」ハ事件ノ責任問題、國境條約附屬地圖等ノコトヲ持
出シ本使モ必要ノ應酬反駁ヲ爲シ三時半迄會談シタルガ本

使提議ニ對スル「リ」ノ答フル所ハ外國軍隊ガ蘇聯領土(蘇
側ノ考フル蘇聯領土)ヲ占領シ居ルコトハ之ヲ許ス能ハズ
故ニ日本政府ニ於テ地圖ニ依リテ示サレタル線内ニ(張鼓
峰其ノ他ノ地點)未ダ残り居ルコトアルベキ軍隊ヲ直ニ引
揚ゲ我領土ニ向ツテノ攻撃ヲ繰返サズ又蘇領土砲撃ヲ中止
スルコトヲ約束スルニ於テハ蘇政府ニ於テモ同様戰鬭行為
ヲ中止スルコトヲ約束スベシ夫レ迄ハ何等ノ約束ヲ爲シ得
ズト言フニ歸着ス會談ノ空氣ハ穩ニ進行セリ
滿へ轉電セリ



274

昭和13年8月4日
在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

戰鬭停止に向けた諸条件に関する重光・リト
ビノフ会談報告(その一)

モスクワ 8月4日後発
本省 8月5日後着

第一〇三五號

四日ノ本使「リトヴィノフ」會談左ノ通り
(本使)、今次ノ國境事件ニ付テハ日本政府トシテ終始一貫

凡ユル努力ヲ以テ之ヲ平和裡ニ且地方的問題(擴大セス)トシテ合理的ニ解決セントスル精神ニ出テ居ルモノニシテ今日ノ申入モ等シク右精神ニ基クモノナリ即チ帝國政府ノ提案ハ現地ノ敵對行爲ヲ直ニ中止シ事件ノ解決ヲ外交交渉ニ移スコトニ在リ蘇側ニ於テ右ニ同意ナルニ於テハ帝國政府ニ於テハ右ニ關シ直ニ具體的交渉ニ入ルノ用意アリ

〔リ〕、平和的解決ト言ハルルモ現地ニ於ケル軍隊ノ行動ハ之ニ合致セサルニアラスヤ蘇聯國境ヲ越ユル戰鬪ヲ爲シ火砲ヲ用ヒ夜襲ヲ行フコトハ平和的方法トハ考ヘラレス寧ロ皮肉ニ聞ユ事件其ノモノカスル日本側行動ニ原因シテ居レリ蘇側ハ單ニ日本側ノ行動ニ對シ應酬セルノミナリ日本側ニシテ軍事行動ヲ止メ蘇領ヨリ全部撤退シ砲撃ヲ止ムルコトトセハ蘇側トシテ軍事行動ヲ繼續スル理由ナキ次第ニシテ其ノ上ナラハ日本政府ノ提議ヲ議スルニ反對セス先決問題トシテ環春界約竝ニ附屬地圖ニ依リテ決定セル國境ノ不可侵ヲ確保スルコトナリ

275

昭和13年8月4日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

戰鬪停止に向けた諸条件に関する重光・リト ビノフ会談報告(その二)

モスクワ 8月4日後発
本省 8月5日夜着

第一〇三六號

(1)〔本使〕今次ハ事件ノ責任問題又ハ國境問題ニ付日本側ノ主張ヲ繰返ス考ナカリシモ貴説ニ對シテハ一言簡單ニ反駁セザルベカラズ抑モ事件ノ發端ハ蘇側ガ突如滿洲領土タル張鼓峰ヲ占領シ間モナク戰鬪員ニアラザル憲兵數名ヲ明カニ滿領ノ疑ナキ所ニ於テ射撃シ内一名ヲ射殺シタルニ依リ始マリ右蘇側不法占領ノ繼續ガ問題ノ原因ナルヲ以テ責任ハ總テ當然蘇側ニ在リ加之蘇側ハ其ノ後空軍及大砲ヲ以テ滿洲國及日本國ノ領土ニシテ事件ト關係モナク防備モ施サレザル地區ヲ爆撃若クハ砲撃セリ是等ノ結果生ズベキ事態ニ對スル責任ハ全部蘇政府ニ在ルコト當方ヨリ抗議申入ノ通りナリ

次ニ貴方ノ主張セラルル國境線ニ付一言ス右國境線ハ環春界約及蘇側ノ有スル附圖ナルモノニ依リ主張セラルル次第ナルガ右ニ付テハ前同意見開陳ノ通り我方ノ有スル地圖ヲ

含ム資料ハ必ズシモ右蘇側ノ資料ニ一致セズ日本側資料及歴史ニ徴シ張鼓峰其ノ他ノ高地ハ滿領ナルコト明カニシテ此ノ點蘇側意見ニ同意シ得ザルコト今モ變化ナシ從テ先ヅ第一ニ貴方ノ言ハルル蘇側國境ヨリ全部日本軍隊ヲ撤退スベシトノ提議ハ理由ナシト認ム我方トシテハ先ヅ蘇側ニ於テ日本及滿洲國領土ヲ攻撃セザランコトヲ要求スルモノナリ

然レドモ双方前記ノ如キ主張ヲ固執スルコトハ事件ノ實際の解決ニ資スル所ナシ今日ノ場合最モ實際的ナル方法トシテハ先ヅ第一ニ双方戰鬪行爲ヲ中止スルコト先決問題ナリ而シテ之ガ爲直ニ具體的交渉ヲ開始スルコト最モ必要ナリト認メラル本日ノ我方提議ノ如キハ苟モ事件ヲ平和裡ニ解決セントスルモノノ當然執ルベキ措置ナリ

更ニ又國境問題ニ付テハ從來ノ話合モアリ戰鬪行爲ノ止マリタル後蘇側ニ於テ希望スルニ於テハ之ヲ審議スルニ異議ナシ其ノ際ハ我方ノ材料ヲモ提出スベシ

(リ)⁽²⁾ 國境問題ニ付貴方ニ於テ從來ノ意見ヲ變更セラレザレバ之ヲ繰返シ論議スルモ何等益ナキモ國境ハ當事國間ノ國際條約及附屬地圖ニ依リテ定マルモノニシテ第三國ノ政

府軍部ノ主觀的意見ニ依リテ定マルモノニアラス蘇側トシテハ條約地圖ヲ提示シタルモノナルヲ以テ此ノ問題ニ付テハ有利ノ立場ニ在リ

事件ノ解決ニ付テハ自分トシテモ實際的基礎ニ於テ交渉ヲ爲ス用意アリ又戰鬪行爲ヲ中止スルハ歡迎スル所ナリ然レドモ吾人ハ外國軍隊ガ我方ニ於テ蘇領ト考ヘ居ル領土ハ寸土タリト雖占領セラレアルコトヲ許ス能ハズ故ニ日本政府ガ未ダ残り居ルコトアルベキ軍隊ヲ地圖ニ示サレタル線外ニ引揚ゲ日本軍ガ蘇領ヲ砲撃スルコトヲ中止スルコトヲ約束スルニ於テハ蘇政府モ同様戰鬪行爲ノ中止ヲ約束スベシ蘇聯ハ滿洲國領土ヲ攻撃スルノ意思毫モナク又之ヲ要セズ右ハ日本側ニ明カナルベシ如何トナレバ日本側ガ夜襲ヲ以テ「ザオゼルナヤ」(張鼓峰ノ代リニ最近蘇側ハ新聞等ニ用フ)ヲ占領シタル後モ蘇側ハ何等ノ陣地構築ヲ爲サズ滿側ヲ攻撃ヲ爲サザリキ

~~~~~

276

昭和13年8月4日

在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

戰鬪停止に向けた諸条件に関する重光・リト

## ビノフ会談報告(その二)

モスクワ 8月4日後発

本省 8月5日夜着

### 第二〇三七號

(1) 本使 今回ノ不幸ナル事件ヲ實際的ニ且平和裡ニ解決スルコトニ御異存ナキ趣旨ヲ伺ヒタルガ右ハ全ク日本政府ノ考ト合致ス條約及地圖ニ付テハ本使ハ關係國間ノ條約又ハ取極ガ效力アリヤナシヤヲ争ヒ又ハ言及シタルコトナシ然レドモ蘇滿國境ニ付テハ滿洲國ガ獨立後支那ヨリ得タル材料及條約アリ之ニ依テ我方ノ主張ハ的確ニ行ハレ居ル次第ナリ此ノ我方意見ヲモ考量スル必要アリト思考ス貴方ガ地圖ニ在リト云ハルル線丈ケニテ問題ヲ決定スベシト云フハ甚ダ無理ナル註文ナリ貴方ノ地圖ハ日本側トシテモ亦他ノ外國人トシテモ未ダ見タルコトナキモノナリ本使ハ其ノ眞否ヲ争フ次第ニアラザルモ此ノ地圖ヲ以テ問題ノ解決ノ唯一ノ根據ト爲スコトハ不合理ニシテ賢明ナラズト思考ス是等ノ問題ハ事件ノ處理ヨリ引離シ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ審議スベキモノト思考ス現狀ノ如ク急迫セル事態ノ下ニ在リテハ條約ト法律問題ヲ他日ニ譲リ事件ノ實際的解決ヲ計ラザ

ルベカラズ即チ直ニ軍事行動ヲ中止スルコトトシ右ニ必要ナル具體的交渉ヲ現地ニ於テ行フコト然ベシトノ我方提議ヲ爲ス所以ナリ右ノ場合日本トシテモ國境問題ニ關スル法律問題ニ觸レズ實際的ニ處理シ得ルコトト思考ス

(2) 尙一言ヲ附加シ度キ點アリ假ニ國境線ガ貴方ノ言ハルル通り張鼓峰ノ頂上ヲ通過スル場合(日本側ハ此ノ國境線ヲ認メザルモ)其ノ頂上ヲ蘇側軍隊ガ占領シ陣地ヲ構築シ加之右高地ノ滿洲側ヲ巡視シタル非戦闘員トモ言フベキ我憲兵數名ニ射撃ヲ加ヘ其ノ一名ヲ射殺セルガ如キハ果シテ滿洲側ニ對シ何等攻撃の意思ナシトノ貴下ノ聲明ト合致スベキヤ本使トシテ茲ニ過去ノ不快ヲ繰返シ述ブルハ欲セザルモ右ハ何人モ理解スル條理ナク夫レハ兎モ角目下日本政府ノ主眼トスル所ハ事件ノ合理的、實際的解決ナリ右ニ付テハ主義上貴方ノ同意ヲ得タリト思考スルガ更ニ一步進メテ我方提案ニ賛成セラレンコトヲ希望ス

(3) 「リ」蘇聯國境ハ清帝國代表トノ間ニ署名セラレタル露支協約ニ依リテ規定セラレ右ニ依ル國境ヲ以テ吾人ハ蘇聯ト滿洲、朝鮮トノ國境ト認ム日本ノ滿洲占領ハ日本ニ對シ國境ノ變更權ヲ與フルモノニアラズ蘇聯トシテ國境ノ變更改

訂ヲ認ムル能ハズ日本ガ以前ニ蘇支間代表ノ署名ノアル地圖ヲ見ザリシコトニ付テハ我方ノ罪ニアラズ琿春界約ハ西氏ニモ示シ大使御自身ニモ御目ニ掛ケタリ大使トシテハ研究ノ爲右ノ「コピー」ヲ與ヘヨト要求シ得タルナラン然ルニ日本軍部ハ直接行動ヲ執リ蘇聯ノ國境ヲ犯セリ此ノ狀態ハ依然恢復セザルベカラズ自分ハ次ノ意味ニテ貴方ノ申入ニ同意セルモノナリ即チ日本政府ニ於テ地圖ニ示サレタル線外ニ其ノ軍隊ヲ直ニ引揚ゲ蘇聯領土ノ攻撃ヲ繰返サザルコト、其ノ領土ノ砲撃ヲ中止スルヲ約束スルニ於テハ戦闘行爲ノ中止ニ同意スルモノニシテ日本政府ニ於テモ右ニ同意ナルコトヲ聲明セラルレバ右ノ約束ハ直ニ實施セラルベシ蘇側ハ其ノ上貴使ニ琿春界約及地圖ノ寫眞ヲ御研究ノ爲及日本政府ハ之ニ基キ先鋒ニ向ツテ其ノ國境尊重ヲ指令シ得ル爲差上ゲテモ好シ

277

昭和13年8月5日

在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

# 戦闘停止に向けた諸条件に関する重光・リト ピノフ会談報告(その四)

## 第一〇三八號

モスクワ 8月5日後発  
本省 8月5日後着

(本使之ニ對シ琿春界約及附屬地圖ニ付テハ曩ニ我方ノ主張ヲ繰返シ説明セルニ付之ヲ略シ唯我方トシテ從來ノ主張ヲ固執スルモノナルコトヲ申上ゲベシ

唯國境確定ニ付テハ曩ニ滿蘇間ニ双方ヨリ代表ヲ出ダシ委員會ヲ設置スルコトニ付テハ意見ノ一致ヲ見タルモノナルガ右國境確定ナルモノガ若シ貴方ノ言ハルルガ如ク貴方ノ提出セラルル地圖ノミニ依リ決定セラレザルベカラズトノコトナラバ之ハ蘇側ノ意嚮ノミヲ以テ決定セラルル結果トナリ委員會組織ノ如キハ無意味ナリシ次第ナリ果シテ然ラバ委員會組織ニ賛成セラレタルモ右ノ趣旨ニアラザリシモノト思フ

尙原狀回復ナル御考ニ付テハ本使トシテ相當ノ異議ヲ認ムルモノナリ今回ノ事件ハ七月十一日蘇側ガ張鼓峰ヲ占領シタルニ始マルモノニシテ其ノ以前ノ事態ニ回復スルコトハ實際的考ナリト思考ス蘇側ノ國境ト爲ス線外ニ日本側ガ引揚グルコトヲ先決問題トスルコトハ條約ノ解釋及國境ニ關

シ見解ヲ異ニスル今日片務的ニシテ理由ナキモノト考フ今日ノ會見ニ依リ大體貴方ノ御意嚮モ判然シタルヲ以テ右ヲ政府ニ報告スルコトトスベシ

(リ) 自分ノ現狀<sup>(原カ)</sup>回復ナル語ハ七月二十九日迄ノ狀態(日本側ガ初メテ地圖ノ線ヲ越エ張鼓峰、沙草峰ノ高地ヲ占領セル)ニ復歸スルコトヲ意味ス尙混合委員會ニ付テハ蘇側トシテ今猶之ニ對スル同意ヲ撤回スルモノニアラズ然レドモ委員會ノ事業ハ現存露支條約議定書附屬地圖(琿春界約ヲ含ム)ヲ以テ基礎トシテ「デマルケイション」ヲ爲スニアリ日本政府ニ於テ琿春界約ヲ認メラレバ問題ノ地點ノ「デマルケイション」、「リデマルケイション」ニ同意ス但シ琿春界約ニ代リ新ナル界約ヲ作ル考ナシ界約ハ琿春界約ニ依リ明カニ規定セラレアリ

(本使)混合委員會ノ問題ニ付テハ右ニ關スル交渉當時日本側ノ意嚮ハ明瞭ニ述ベラレアルヲ以テ茲ニ繰返シ述ベズトテ會見ヲ打切り歸來セリ

~~~~~

278

昭和13年8月5日 在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

飛行機・大砲によるソ連側攻撃につきリトビ ノフとの応酬報告

モスクワ 8月5日前発

本省 8月5日夜着

第一〇四一號

本日會見ノ終ニ幾分雜談ノ形ニ於テ(英語ヲ以テ)「リ」ハ蘇側ノ立場ハ御了解ヲ得タルコトト信ズト述ベタルニ付本使ハ國境線ニ關スル貴方ノ立場ハ了解ハシタルモ日本ノ立場ハ之ト全然異ナルモノニシテ本使説明ノ次第ハ御了解ノコトト(信ズト)述ベ更ニ抑國境ガ山頂ニ在リト假定シテ之ヲ一國ガ占領シテ敵(對)行爲ヲ行フヲ容認スルコトアリ得ルヤ之ヲ主張スル蘇側ニハ日本ガ同ジ蘇側ノ言フ國境上ノ地點ヲ占領シ居ルコトニ付抗議スルノ權利ナシ蘇側ハ夫レノミナラズ飛行機、大砲ニ依ル背後地ノ爆撃又ハ砲撃ヲ行ヒツツアリ日本ハ最初ヨリ嚴ニ飛行機、大砲ニ依ル攻撃ヲ禁止シ居レリト言ヒタルニ「リ」ハ蘇側飛行機ノ爆撃ハ報復手段ナリ日本ハ連日蘇側ヲ砲撃シ居レリト言ヒタルニ付貴下ハ恐ラク前線ヨリ正確ナル報告ヲ得ラレ居ラザルガ如シト述べ置ケリ

以上ハ會見ノ餘談的ノコト乍ラ報告ス
満ヘ轉電セリ

279

昭和13年8月5日
在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

日本軍がソ連領に留まる間はソ連側行動の自由は留保するとのリトビノフの主張について

モスクワ 8月5日夜発

本省 8月5日夜着

第一〇四二號(大至急)

往電第一〇三八號末段ニ左ノ通り追加アリ度シ
尙「リ」ハ日本軍隊ノ蘇領ニ在ル間蘇側トシテ行動ノ自由ヲ留保スルモノナルコトヲ了解セラレ度シト述べ自己ノ議論ヲ繰返シタリ

280

昭和13年8月5日
在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

ソ連側の議論の重点は琿春界約付属地図の承認にあり張鼓峰事件は外交交渉により収束可

能との見通しについて

第一〇四五號

モスクワ 8月5日前発
本省 8月5日夜着

日本大使「リトヴィノフ」トノ會談ハ出來得ル丈ケ興奮スルヲ避ケ先方ノ意向ヲ探ルニ努メ餘地ヲ殘シテ別レタルガ先方ノ態度ハ激越ノ調子ハ少シモ見受ケラレズ議論ヲ續行シタリ

一、先方議論ノ重點ハ琿春界約附屬地圖ヲ承認セシメントスルニ在リ恐ラク此ノ點ニ敗ルル時ハ他ノ國境問題全面ニ惡影響ヲ及ボスコトヲ惧レ之ヲ固執スルコトニ決定シ居ルモノト認メラル

二、從ツテ張鼓峰ノ問題ハ軍部ニ於テ奪還不能ナラバ宣傳ニ依リテ現状ノ儘自然ニ泣寝入ルモ亦已ムヲ得ザルモ地圖ノ立場ハ飽ク迄維持スル意向ト見受ケラル

三、當地外交團中ニハ(例ヘバUUU)蘇聯ハ事件ノ峠ヲ越エタルコトヲ見越シテ輿論ヲ沸騰セシムル場合多シ本日新聞ノ日本反對ノ集會決議モ或ハ此ノ調子ニ非ザルヤト認メ居ルモノ多シ

素ヨリ茲數日ハ特ニ注意ヲ要スルモ我方ノ平和的且穩健ナル態度ハ外部ニ宣傳スルト共ニ外交接觸ヲ維持シ行クニ於テハ漸次冷靜ニナリ現狀ノ儘收マルニ非ズヤトモ思ハル在歐各大公使、壽府、滿、浦潮、米、伯へ轉電セリ

281

昭和13年8月6日
宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

戰鬭停止の具体案をソ連側へ提議方訓令

本省 8月6日後1時發

第四五六號(極秘、大至急)

貴電第一〇三二號第一〇三五號乃至一〇三八號及第一〇四五號ニ關シ「リ」ノ主張ハ要スルニ我方ガ一定ノ線迄後退セバ戰鬭行為停止ノ提議ニ應ズル肚ト思料セラルルニ付大至急「リ」又ハ「ストモニヤコフ」ニ御會見ノ上戰鬭行為停止ノ具體的方法ニ就イテハ先ヅ第一案トシテ即時「ソ」軍ハ長池東方高地ノ線ニ、日本軍ハ張鼓峰西側高地及沙草峰西側ノ無名池西南側高地ノ線ニ夫レ夫レ後退シ爾後紛爭解決迄中間地域ニ互ニ立入ラザルコトヲ主張セラレ已ムヲ得ザレバ第二案トシテ「ソ」軍ハ長池ヨリ西方ニ出デザル

コトヲ條件トシテ日本軍ハ第一段記載ノ線(七月二十九日ノ線)ニ後退シ爾後紛爭解決迄中間地域ニ互ニ立入ラザルコトヲ主張シ之ニテ話合ヲツケラレ一日モ速ニ現地ニ於ケル事態ノ緩和ヲ計ル様御努力相成度(我方ハ現在ニ於テモ「ソ」領ニ越境シ居ラザルニモ不拘右様後退案ヲ提出スルノ公正ナル態度ハ充分有利ニ先方ニ御説示アリ度)尙戰鬭行為停止實現ノ後ハ第二段ノ外交交渉トシテ紛爭現地附近ノ國境劃定ニ入ル可キ處右國境劃定ニ付テハ

(一)我方ハ琿春界約ヲ審議ノ基礎トスルコトニ異議ナシ

(二)土字界標ト第一記號トノ間ニ於テ國境線ノ劃定ヲ行フコト

(三)國境線ノ劃定ハ現地ニ於テ滿「ソ」雙方ノ所持スル條約及附圖ヲ照合シ共同調査ノ上之ヲ行フコト

(四)國境線ノ劃定ハ滿「ソ」間ニテ行ヒ日本側ハ之ニ立會フコト

ノ方針ニテ進ムコトト致シ度キニ付當面ノ急務タル戰鬭行為停止ノ商議ニ當リ先方ヨリ琿春界約乃至國境線ノ劃定ニ話ヲ持カクル時ハ適宜右趣旨ニ依リ應酬セラレ度尙前記(一)ノ琿春界約トハ交界道路記文及附圖ヲモ含ム意ト解シ差支

ナキニ付キ話ノ模様ニテ先方ハ右様言明セラレ差支ナシ
満ヘ轉電セリ

282

昭和13年8月8日 在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

重光・リトビノフ第二次会談におけるソ連側 態度について

付記一 昭和十三年八月八日

「外務電(重光「リ」七日會見後重光大使ノ記
者ニ對スル發表)」

二 作成日不明、軍令部第七課作成

「重光「リトヴィノフ」第二次會談」

モスクワ 8月8日前発

本省 8月8日夜着

第二〇六八號(大至急、極祕)

七日午後五時半ヨリ九時迄交渉ヲ續行セリ其ノ要旨ハ往電
第一〇六七號說明振ノ通りナリ之ヲ要スルニ先方ハ事件擴
大ノ意思ナキヲ表明シツツモ琿春條約附屬地圖ノ線ヲ固執
シ其ノ線外ニ日本軍ノ撤退スルコトヲ戰鬪行爲中止ノ先決

問題ト爲スト言フニ歸着ス本使ハ双方軍隊ヲ一定距離ニ引
離シ問題地點ヲ空ニシ國境確定ヲ行フノ妥協案ヲ提出シ各
方面ヨリ説キタルモ先方ノ態度ヲ變ヘシムルニ至ラズシテ
會見ヲ終レリ

尙會談ノ終ニ第十八號界標事件ニ付先方ヨリ斯ル行動ニ對
シテ飛行機若クハ大砲ニ依リ對應スルコトアルベキコトヲ
警告スト述べタルニ依リ本使ハ却テ抗議ヲ以テ之ニ對應シ
置ケルモ本件ハ相當先方ノ神經ヲ刺戟セル模様ナリ
尙右會見ノ空氣ハ平靜ナリ

在歐米各大使、在歐各公使、壽府、浦鹽、滿ヘ轉電セリ

編注 電報第一〇六七号は見当らないが、その内容について
は本文書付記一を参照。

(付記一)

外務電(重光「リ」七日會見後重光大使ノ記者

ニ對スル發表)

一三一八八一 一〇六七ノ一(大至急)

本日ノ本使「リ」會談ニ付テハ左ノ趣旨ニテ外部ニ説明ス

「リ」「ソ」軍隊ノ攻撃ニ依リ日本軍ハ既ニ國境外ニ撤退

セシニ付若シ日本軍ニシテ砲撃ヲ中止スルニ於テハ

「ソ」側ハ同様之ヲ中止スベシ

本使 日本軍ハ單ニ國境ヲ防衛スルノミニシテ曾テ攻撃シ

タルコトナク蘇軍ニシテ攻撃ヲ中止スルニ於テハ日本

軍モ當然攻撃ノ必要ヲ感ゼザル譯ナルニ付先ヅ「ソ」

軍ノ攻撃中止ガ先決問題ナリ、從テ現狀ノ儘戰鬪行爲

ヲ中止シテ國境確定ノ問題ヲ處理スルコトニ同意シテ

本件ヲ平和的ニ交渉シテハ如何

ト提議シタルガ

「リ」 琿春界約附屬地圖ニ現ハレアル國境線内ニ日本兵ノ

アル間ハ戰鬪中止ヲ約束シ得ズ又國境確定ハ專ラ琿春

條約附屬地圖ニアル條件ヲ以テ承認シ得ルモノナリ

トノ最初ヨリノ主張ヲ繰返シタリ、之ニ對シ

本使 今回ノ場合ハ現地ニ於テ國境ノ確定ヲ行ヒ得ンガ爲

ニハ先ヅ戰鬪行爲ノ中止ヲ先決問題トス、「ソ」側領土

ニハ日本兵ナシトノ情報ヲ有スル貴方トシテハ現狀ヲ

維持シテ差支ナカルベク即チ現狀ノ儘カ若ハ双方ノ軍

隊ヲ適當間隔ニ引離シ問題ノ地點ヲ平和的狀態ニ置キ

平靜裡ニ國境ノ確定ヲ行ヒ得ルコトシ右ノ如キ戰鬪
行爲中止ノ爲ニ兩軍ノ代表者ヲシテ具體案ヲ會商セシ

ムルコトヲ提案シタリ

「リ」ハ「日本軍ガ琿春條約附屬地圖ノ線外ニ在ルコトナ

ク二十九日ノ狀態ニ復歸スルコトヲ戰鬪行爲中止ノ條件ト

ス」ト述べ又國境確定ニ關スル前ノ主張ヲ繰返セリ

之ニ對シ事件ノ發生ハ七月十一日「ソ」側ガ張鼓峰ヲ占領

セシコトニ始マリ居ルヲ以テソレ以前ノ狀態ニ復歸スルコ

ト最モ穩當ナル案ナルガ兎ニ角折角我方ヨリ前述ノ如キ最

モ妥協的ニシテ條理アル具體的提案ヲナシタルニ對スル右

「リ」ノ非妥協的態度ハ「リ」ガ度々繰返シテ本件ヲ平和

的ニ且局地的ニ解決シ度シトノ希望ト如何ニシテ合致スル

ヤ判斷ニ苦シムト述ベタリ

編 注 昭和十三年八月八日發在ソ連邦重光大使より宇垣外務

大臣宛電報第一〇六七号の一部と思われる。

(付記二)

◎軍令部第七課

重光「リトヴィノフ」第二次會談

會談要録左ノ通り

「リ」

前回貴使が戰鬪行爲ノ中止ヲ提議セラレタルニ貴方軍隊
 が其ノ後蘇側ニ向ツテ攻撃ヲナシタル爲メ蘇側トシテモ
 大砲、飛行機ヲ用ヒタリ右ニ對スル責任及右ノ爲メノ犠
 牲ニ對スル責任ハ日本側ニアリ

本使

右ハ甚ダ意外ナリ本使ハ四日ノ會見ニ於テ戰鬪行爲ノ停
 止、外交交渉ニ依ル事件ノ解決ヲ提議シタルニ貴方ハ蘇
 側ト主張スル國境線外ニ日本軍ガ撤退スルコトヲ先決條
 件ナリトテ妥協ノ意ヲ示サズシテ戰鬪繼續ノ意ヲ明カニ
 シテ現地蘇軍隊モ同様ノ態度ヲ執レリ然ルニ日本軍ハ嚴
 格ナル命令ヲ奉持我方ニ於テ滿領ナリト信ズル國境外ニ
 一步タリトモ踏ミ出シタルコトナシ又滿領ノ防禦以外ノ
 行動ヲ執リタルコトナシ之ニ對シ蘇側ハ最モ時局收拾ニ
 危険ナル飛行機ノ攻撃ヲ行ヒ事件ト關係ナキ無防備ノ奧
 地ヲ爆撃シ無辜ノ住民ヲ殺傷スルガ如キハ實ニ危険ナル
 遣リ口ナリ、我方ハ之ニ對シ尙飛行機ヲ用ヒズ國境ノ防

備ニ止メ攻撃の挑發行爲ヲ抑制シ居レリ、現地ヨリノ確
 報ニ依レバ現地ニ於テハ前回會談後相當激烈ナル戰鬪行
 ハレタル由ナルガ之全ク蘇側軍隊ガ或ハ晝或ハ夜日本ノ
 防禦線ニ向ツテ砲撃ヲ行ヒタル結果ナリ、從ツテ之ニ對
 スル責任ハ日本側ノ負フベキ筋合ニアラズ、斯ノ如キ蘇
 側ノ行爲ハ平和的ニ事件ヲ處理スルコトニ賛成セラレタ
 ル貴下ノ聲明ト一致セズ、本使ハ茲ニ右ニ對シ最モ嚴肅
 ナル抗議ヲナスト共ニ前回提議セル戰鬪行爲ノ即時停止、
 外交交渉ニ依ル事件ノ解決案ヲ維持スルモノナルコトヲ
 聲明ス

「リ」

貴使ハ防禦戰ト言ハルルモ滿國領土ヲ防禦シタルニ非ズ
 蘇領ニ向ツテ蘇兵ニ對シテ挑發攻撃セルモノナリ從ツテ
 日本側ニ抗議ノ理由ナシ、今之ニツキ討論ヲ重ヌル必要
 ナシ、前回及本日ノ貴方提議ニ付テハ最近ノ報告ニ依レ
 バ日本軍隊ハ蘇領ヨリ後退スルノ餘儀ナキニ至レル由ナ
 レバ今後滿領ヨリ蘇領ニ向ツテ砲撃セザレバ貴使ノ提議
 ハ實現セラルル次第ナリ、今回ノ事件ヲ以テ單ナル國境
 事件ト云フハ當ラズ日本側ハ最初ヨリ砲兵ヲ用ヒ正規兵

ヲ以テ蘇領ヲ占領シ蘇聯ヲ戰鬪ニ捲キ込マントセルモノナリ、斯ル企ハ再ビ繰リ返ヘサレザルコトヲ要望ス

本使

日本軍隊ハ一步タリトモ蘇領内ニ侵入セザルモ滿領ハ寸土タリトモ之ヲ守ラザルベカラズ、從ツテ蘇側ノ侵入ニ對シテ適當ナル防禦措置ヲ執リタルニ過ギザルモノナリ今日迄ノ實情ニ於テハ蘇側ハ飛行機、「タンク」、大砲等凡有ル武器ヲ以テ日本側ヲ攻撃シツツアリ、然ルニ日本側ハ努メテ攻撃の武器ヲ用ヒズシテ防禦ニ從事シツツアリ貴方ノ抗議ヲ聞クハ以外ナリ、次ニ蘇側軍隊ハ本日日本軍隊ヲ撃退シタリトノ情報ヲ有スル趣ナル處才話ノ趣旨ハ今日ノ現状ニ於テ日本側ヨリ發砲セザレバ蘇側モ發砲セズトノ趣旨ニ解シ可然ヤ、今次ノ事件ニ付テハ我方ハ飽ク迄合理的の基礎ニ於テ之ヲ解決セン意嚮ニシテ蘇側ニ對シ全面的の戰爭ヲ挑發セントスルガ如キ意嚮ナキハ勿論ナリ、蘇側ノ態度ヨリ種々誤解ヲ與フル點アリ

「リ」

我方情報ニ依レバ日本軍隊ハ今ヤ蘇領内ニ在ラズトノコトナレバ今後蘇領ヲ越境セザレバ又滿側ヨリ蘇側ニ向ツ

テ射撃セザレバ蘇側モ射撃セザルベシ、反對ニ日本軍隊ガ再ビ蘇領ニ現ハルレバ滿領ヨリ蘇側ニ對スル射撃ガ行ハルレバ蘇軍ハ其ノ軍事行動ヲ停止スル能ハズ之我方ノ立場ナリ

本使

右ハ七日以後日本軍ガ蘇軍ヲ攻撃セズ滿洲國側ヨリ射撃ヲ行ハザレバ蘇側モ日本軍ヲ攻撃、射撃、爆撃セザルベキモノト諒解シテ可ナリヤ即チ日本軍ハ今日ニ於テモ蘇軍ヲ進デ攻撃スルモノニ非ズ故ニ日本軍ヲ攻撃スベカラズトノ命令ヲ直ニ出先軍隊ニ發令セラルコトハ諒解シテ可ナリヤ、若シ右ノ通ナラバ戰鬪行為停止ニツキ双方軍隊ハ兩者間ニ於テ打合ヲ爲ス考案ニツキ御意見伺ヒ度シ

「リ」

貴使ハ何日限り攻撃セズト言フガ如キ點ヲヤカマシク言ハルルモ問題ハ領土ノ問題ナリ、蘇側ハ自分ノ領土ト認ムル國境ヲ日本軍ガ越境スルニ非ザレバ攻撃セザルナリ從ツテ貴方ノ言ハルル如キ特別ノ命令ヲ發スルノ必要アルハ疑ハシ

本使

日本軍隊ハ滿國領土ヲ防禦セザルベカラズ蘇側ガ之ヲ侵サザルコト先決問題ナリ領土ノ問題ニ付テハ双方ニ意見ノ一致ナシ然レ共貴方本日情報ニ依レバ日本兵ハ蘇領内ニ居ラズトノコトナレバ茲ニ領土問題ヲ繰リ返ヘス必要ナカルベシ今後日本軍隊ガ攻撃ヲナスヤ否ヤハ一ニ蘇側態度ノ如何ニ懸ルモノナリ日本側ハ今日迄攻撃的武器ノ使用ニ付隱忍シ居ルモ今後尙蘇側ノ無差別ナル攻撃行ハルレバ如何ナル結果トナルヤヲ心配ス蘇側ニ於テ只今ノ御話ノ如ク蘇軍ヨリハ決シテ攻撃及爆撃セズトノ態度ナラバ日本側モ同様攻撃モ射撃モセズト言明シテ差支ナシ

「リ」

日本側ガ動かズ射撃モセズト云フノミニテハ不十分ナリ日本軍隊ガ我領土ニ在ラバ大砲、飛行機等凡ユル武器ヲ利用シ之ヲ驅逐スベシ我國境線ハ地圖ニアル通ナリ其ノ國境線外ニ出デテ滿國ヨリ射撃セザレバ我方モ射撃、空爆セザルベシ我方ノ有スル現地ノ情報ハ數時間前ノコトナリ、出先軍隊ニ命令届ク迄ニ日本軍隊ガ越境スレバ假令協定成立シタリトテ之ヲ攻撃セザルベカラズ日本政府

ニシテ眞ニ戰鬪行爲ノ停止ヲ欲スルナラバ(我方モ之ヲ欲ス)日本軍隊ハ蘇側ノ解釋スル國境ヲ越境セズ射撃セザルコトヲ蘇側ニ向ツテ約束スベキナリ、日本政府ニシテ我方ノ解釋ニ依ル蘇側領土ニ八日ナリ九日ナリ一兵モ存在セザルコト及滿側ヨリ我方ニ對スル發砲停止スルコトヲ保證セラルルニ於テハ我方モ亦我軍隊ガ我方ノ解釋ニ依ル國境ヲ越エズ及滿國側ヲ射撃セザルコトヲ保證スベシ

本使

「我方ノ解釋ニ依ル」トノ貴方提議ノ文句ヲ「日本側解釋ニ依ル」トスルカ又ハ「現ニ双方ノ軍隊ガ守リツツアル線」トスルナラバ右ニ異存ナシ

「リ」

蘇側ハ琿春界約ニ依ル國境以外認ムル能ハズ

本使

琿春界約ノ我方解釋ニ依レバ蘇滿國境ハ先月十一日以前ニ實施セラレタルモノニシテ張鼓峰ハ滿領ナリ從テ張鼓峰ガ日本軍ノ手ニ在リトスルモ蘇側ヨリ攻撃スベカラザルモノナリ

「リ」

斯ノ如キ話ハヤル丈無意義ナリ國境ハ地圖ヲ見レバ明カナリ地圖ニハ張鼓峰モ沙草峰モ蘇領ナリ右ニ同意セラレザレバ徒ニ時間ヲ空費スルノミナリ此ノ國境ハ凡ユル手段ヲ以テ守ラザルベカラズ如何ナル讓歩モナシ得ズ

本使

國境問題ニ付テハ双方ニ意見ノ相違アルコト最初ヨリ明カニシタル所ニシテ本使トシテ蘇側ノ意見ヲ容ルル能ハザルハ何等誤解ナキ筈ナリ今日ノ御話ニ依ルモ又前回ノ御話ニ依ルモ日本側ヨリ攻撃セザレバ蘇側モ攻撃セズトノコトナルガ問題ハ如何ニシテ之ヲ實現スベキヤニ在リ相對峙スル線ヨリ双方トモ適當ナル距離丈ケ後退シ戰鬪行爲ヲ停止シ問題ノ國境ハ双方代表者間ニ交渉スルコトトセバ如何ナルベキヤ

「リ」

自分ハ只今國境ノ確定ヲ貴使ヨリ要求セントスルモノニアラズ貴使ヨリ戰鬪行爲ノ停止ヲ提議セラレタルニ付之ガ具體化スル方法ヲ述ベタルモノニシテ其ノ方法トシテ双方ガ地圖ニ在ル國境線ヲ越エズ且其ノ線ヲ越エテ射擊

セズト言ヒタルモノナリ日本軍隊ガ夫レヨリ後退スレバ尙結構ナリ、射擊ヲシタルモ國境ヲ侵シタルモ大砲ヲ用ヒタルモ日本側ガ初メニシテ我方ニハ後退ノ理由ナシ蘇側モ地圖ノ線ヲ越エザルコトヲ保障スベシ又國境ノ靜謐回復シタル後ハ問題ノ地域ノ國境確定ヲ否定スルモノニアラザル(脱?)尤モ右ハ新ナル國境ヲ設定スルニアラズシテ琿春界約ニ依ル國境ノ「リデマルケーション」ヲ行フモノナリ但シ右國境確定モ琿春界約附屬地圖及道路記文ヲ基礎トセザレバ益ナカラン

本使

問題ノ地域確定ハ條約等ノ材料ニ基キ之ヲ行フノ外ナルベク我方トシテ琿春界約ヲ材料トスルコトニ異存ナシ地圖ニ付テモ充分之ヲ審査スルコトニモ異存ナシ尤モ滿側及日本側ニ於テ有スル材料モ充分審査スベキモノナリ國境確定ノ事業ハ結局蘇滿間ニ於テ行ハルベキモノニシテ日本トシテモ助力ヲ惜マザルベシ然レドモ確定事業ヲ遂行スル爲ニハ戰鬪行爲ヲ現狀ニ於テ停止スルカ又ハ戰鬪行爲ヲ停止シ双方軍隊ヲ引離スコトヲ提議スルモノナリ即チ右ニ關スル具體問題ハ現地ニ於テ双方軍隊代表者

間ニ交渉ヲ行ヒ右軍隊ノ引離ニ依リ空間地帯トナリタル
係争地域ニ付テハ國境確定ヲナスベシト言フガ本使ノ實
際的提議ナリ

「リ」

一旦拒絕シタル提議ヲ繰返スコトハ徒ニ時間ヲ空費スベ
キモノナリ自分ハ今日又ハ明日ノ現狀ニ於テ戦闘ヲ停止
スル案ハ拒絕セリ戦闘行為停止ノ提議ヲ容レ得ルハ七月
二十九日ノ狀態ノ回復ヲナス場合ノミナリ

即チ双方軍隊ハ二十九日迄（戦闘開始迄）ニ居リシ所ニ居
ルコトヲ得ルモノナリ國境確定ノコトハ前回モ御話シタ
ルコトナルガ國境ハ總テ國際條約ニ依リテ決定スベキモ
ノニシテ條約以外ノ材料ハ之ヲ認メル能ハズ琿春界約以
後露支間ニ締結セラレタル協定ヲ日本側ヨリ提示セラ
レバ之ヲ確定委員會ノ基礎トナスベキモ斯ルモノナクバ
琿春界約附屬地圖道路記文ノミヲ基礎トスベキナリ委員
ノ構成ハ双方同數ノ代表者タルベク蘇側ガ二名トスレバ
日滿側含メテ二名タルベシ戦闘シツツアルハ日本トナレ
バ日本人ノ参加ヲ希望ス

本使

日本側ノ立場乃至琿春界約ノ我方解釋ニ付テハ曩ニ開陳
シタル通ナリ只今ノ御話ニ依レバ國境委員會設置ニハ御
異存ナキガ如キモ實際問題トシテハ國境ヲ確定スル爲戰
闘行為ノ停止ニ付キ如何ニセバ妥協點ヲ見出シ得ルヤノ
點ナリ此ノ點ニ關スル我案ハ妥當ト信ズ

「リ」

我方ノ對案ニ付テハ了解セラレタリヤ

本使

自分ハ現狀ノ儘ニテ双方砲撃ヲ停止スルカ又ハ双方ヲ引
離シテ停戦スルカノ二案ヲ提出セリ蘇側ニ於テ日本兵ヲ
後退セシメタリト言ハルル現狀ニ於テ互ニ砲撃ヲ止メ停
戦スルモ可ナリ又更ニ双方ヲ引離ス案モ考慮シ得日本ハ
國境確定ニ付テハ常ニ之ニ應ズル用意アリ

「リ」

然シ現地ノ現狀ノ變更セラレタルコトアルベシ

本使

話ガ纏マリサヘスレバ電信ニテ通知スレバ七時間ソコソ
コニテ到着スベク明日正午以後雙方ヨリ射撃セズト取極
ヲ爲スコト可能ナラズヤ

「リ」

今日自分ノ申シタル提案ヲ要約スレバ次ノ如シ

若シ雙方ガ一定ノ線ヲ越エテ越境セザルコト及射撃セザルコトヲ約束スルニ於テハ軍事行動ヲ停止スルコトニ同意ス若シ協定成立ノ時何レカガ一方ガ右線ヲ越エテ越境シ居ル場合ハ右一方ハ直ニ後退セシムルヲ要ス右線トハ琿春界約ニ依ル地圖ノ上ニ引カレタル線トス換言スレバ七月二十九日迄即チ戰鬪行爲ノ始迄存在セル軍隊ノ狀態ニ復舊スルコト必要ナリ國境ノ靜謐恢復後琿春界約附屬地圖及道路記文ニ基キ問題ノ地區ニ於ケル國境確定ニ着手シ得ベシ若シ日滿側ニ於テ琿春界約後露支間ニ締結セラレタル他ノ協定ヲ提示スルニ於テハ右ハ委員會ノ事業ノ基礎トナルベシ右委員會ハ二名ノ蘇側代表ヲ一方トシ日本人一名、滿人一名ヲ他方トス

本使

只今ノ提案ナルモノハ交渉當初ヨリノ蘇側ノ主張ヲ綜合シタルニ止マリ提案ト稱スベキモノニアラズ蘇側ニ於テ本件ノ處理ニ何等妥協ノ精神ナキヲ遺憾トス今回ノ事件ハ蘇側ニ於テ七月十一日張鼓峰ヲ占領シタルニ發端ス前

記ノ蘇側主張ハ事件ヲ局部的且平和裡ニ解決セントスル希望ヲ表明セラレタル貴方ノ精神ト一致セザルモノアリ在歐各大使、米、伯、壽府、滿ヘ轉電セリ

編注 本文書は外務省電報の写しと思われる。

283 昭和13年8月8日 在ソ連邦重光大使より 宇垣外務大臣宛(電報)

会見中におけるリトビノフの態度一層硬化の背景について

モスクワ 8月8日後発
本省 8月9日後着

第一〇七四號

今回會見ヲ口實ヲ設ケ遷延セルハ(今回ニ限ラザルモ)現地ニ於ケル戰況報告ノ到着ヲ待チシ爲ナリシナルベク又會見ノ途中第十八號界標事件ニ付テ公文書用紙ニ「タイプ」セル政府ノ命令書ノ届ケラレタル後其ノ態度ハ一層硬化セル様見受ケタリ
滿ヘ轉電セリ

284

昭和13年8月9日

宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使、在満州国植田大使
他宛(電報)

ソ連側戦闘行為継続につき在本邦ソ連代理大使へ抗議について

本省 8月9日前2時30分發

合第二五二六號

八日堀内次官多忙ノ爲メ井上局長代リテ「スメターニン」代理大使ヲ招致シ

「先ツ國境問題ニ關シ我方カ戰闘行為相互停止ノ平和的提議ヲ爲シタルニ不拘「ソ」軍ハ依然我方ヲ攻撃シ殊ニ一日數回朝鮮内ノ鐵道沿線其他ヲ爆撃シ邦人官吏及無辜ノ鮮人ヲ殺害シ居レリ、我方ノ公正且平和的提議ニ「ソ」軍カ武力ヲ以テ應ヘ居ル事ニ對シ帝國政府ノ名ニ於テ嚴重抗議スルト共ニ戰闘行為ヲ中止スル様「ソ」政府ヨリ前線「ソ」軍ヘ至急命令方要求ス、本件ニ關シテハ目下莫斯科ニ於テ交渉中ナルカ事態逼迫シ居ルニモ鑑ミ當地ニ於テモ「ソ」側ノ深甚ナル注意ヲ喚起スル次第ナリト述ヘタル處「ス」ハ從來ノ「ソ」側主張ヲ繰返シタル后、七日「ソ」軍ハ日本軍ヲ「ソ」領内ヨリ全ク驅逐シタル

カ日本軍カ尙越境攻撃、爆撃等挑發行為ヲ續行シ居ルニ對シ抗議スト言ヘルニ依リ局長ハ我軍ハ一兵ト雖モ越境セル事無ク又爆撃ハ「ソ」軍ノ事ニシテ現地及鮮内各地ヲ連日爆撃シ居ルモ我軍ニハ此事絕對ニナク右ハ世界公知ノ所ナリ「ソ」軍ノ斯カル挑發行為カ如何ナル重大結果ヲ招來スルヤハ自明ノ理ナリ、我方主張ハ莫斯科へ傳達アリ度シト要求シ

三、次テ局長ハ哈府總領事館強制閉鎖問題ニ就キ武市ノ場合ト同様日本政府ノ名ニ於テ嚴重抗議シ殊ニ「ソ」側カ總領事ノ平文電報スラ受理セス日常生活上ノ不自由ヲ與ヘタルハ看過スル能ハス「ソ」官憲ノ斯カル不法措置ニ對シ抗議スルト共ニ行動ノ自由ヲ留保ス、尙浦潮ヘ引揚ケタル哈府總領事館員沓掛及鈴木兩名ノ査證有効期間ハ七日ニ切レタルニ付之レカ延期方斡旋アリ度シトテ神戸領事館閉鎖后大使館及函館領事館へ轉勤セル館員「ブトケーヴィチ」及「ソコリスキー」兩名ノ例ヲ引キ要求シタルニ「ス」ハ領事館問題ハ「ソ」側ニ於テハ既ニ解決セリト見做シ居レリ、沓掛及鈴木ノ轉勤ハ査證期限切レタルモノナレハ「ブ」及「ソ」ノ場合ト同一視スヘカラス

一旦歸國ノ上改メテ査證ヲ願出ツヘキモノニテ斡旋ハ出
來スト逃ケヲ張リタル趣ナリ

285

昭和13年8月[9]日 宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

リトビノフが提案する原状回復の具体的意味
につき会談において得た印象至急報告方訓令

本省 8月9日發

第四八〇號(大至急)

貴電第一〇七〇號ノ七及八ニ關シ

「リ」ノ主張スル「七月廿九日ノ狀態ノ回復」トハ「ソ」
軍ハ現在ノ儘トシ日本軍ガ七月廿九日ノ線ニ引退ルコトナ
リヤ又ハ日本軍ガ七月廿九日ノ線ニ引退ルト共ニ「ソ」軍
ガ張鼓峰上ニ進出スルコトヲ意味スルヤ不明ナル處會談ノ
模様ヨリ推シ先方ノ意向ハ何レト思料セラルルヤ此ノ點當
方トシテ極メテ重大視スル所ナルニヨリ會談中ニ得ラレタ
ル貴大使ノ御印象大至急回電相成度

286

昭和13年8月9日 宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

ソ連側からの具体案提示を機に大至急停戦実

現方訓令

本省 8月9日後8時40分發

第四八二號(大至急)

貴電第一〇七〇號ニ關シ

「同電末尾「リ」ノ具體的提案出デタル此ノ際左記ニ依リ
大至急停戦實現方此ノ上トモ御努力アリタシ

(イ)右提案中「若シ協定成立ノ時」ヨリ「復舊スル事必要
ナリ」ニ至ル戰鬪停止ノ具體的方法ニ就テハ往電第四
五六號中ノ第一案乃至第二案ニ依リ難キ場合ニハ第三
案トシテ沙草峰南方高地、張鼓峰及五二高地ノ嶺ヲ連
ヌル線「ソ」側ノ言フ琿春界約ノ線」ヲ界トシ双方ト
モ或一定距離(例ヘバソレゾレ一杆)ヅツ兵ヲ引離ス案
ニ依ルモ差支ナキコト

(ロ)右提案中「若シ日滿側ニ於テ琿春界約以後」ヨリ「基
礎トナルベシ」迄ノ間ニ付テハ前記往電後段ノ(三)ノ點
ヲ納得セシムルコト

(ハ)右提案中「右委員會ハ」ヨリ「他方トス」迄ノ間ニ付テハ前記往電後段ノ(四)ノ趣旨ニヨリ滿蘇双方ヨリ各二名ノ委員ヲ出シ日本ハ「オヴサーヴァー」一名ヲ出シ之ニ立會フコト

ニ要スルニ右(イ)カ主眼ナルニ付此ノ際(ロ)及(ハ)ニ付テハ止ムヲ得ザル場合ハ貴使ノ御裁量ニヨリ先方ト妥結セラレ差支ナク尙右以外ニ於テモ適宜話合ヲ付ケラレ差支ナシ滿ヘ轉電セリ

287

昭和13年8月9日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

璦春条約付属地図の法的解釈につき政府見解 確定方要請について

第一〇八四號(大至急、極祕)

當地ニ於テ交渉ノ經過ハ佛大使へ本使自ラ詳細内話シ置キ同大使ハ全部本國政府へ電報セル由申シ居レリ昨八日モ當館ニテ同大使ニ會見最近ノ交渉ノ經過ヲ内報シ此ノ上ハ蘇

モスクワ 8月9日發
本 省 8月10日前着

聯ノ態度如何ニ懸ルニ付其ノ出様ヲ俟ツ旨述べ置キタリ、佛大使ハ其ノ際國境問題ノ法律的解释(地圖ノコト)ハ蘇側ノ方ニ有利ナリトノ専門家ノ意見ナリト申シ居リタリ御參考迄、就テハ璦春條約ハ公表セラレ居ルモ地圖ハ事件前二公表セラレタルコトナク紛争生ジタル時之ヲ持出シ取極ノ双方(蘇支)共日滿ノ紛争相手方タル觀アル際持出シタル地圖(而シテ右地圖ノ國境線ハ從來ノ慣行ニモ合セズ又滿側材料(如何ナルモノナルヤハ不明)ニモ合セザルモノ)ハ果シテ法律上如何ナル地位ニアリヤ「ベテイ」博士等ノ意見ヲ徵シ政府ノ意見ヲ確定シ置カレ度シ(往電第一〇四六號参照)

在歐各大使へ轉電セリ

288

昭和13年8月9日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

ソ連側が求める原状回復は日本軍が璦春条約付属地図の境界線外に撤収することであり再度張鼓峰へ進出する意図ありとの観測について

モスクワ 8月9日後発
本省 8月10日前着

第二〇八五號(大至急)

貴電第四八〇號ニ關シ

先方ノ要求ハ日本軍ガ蘇側ノ國境線ト信ズル線(地圖ノ線)
外ニ撤收スルコトヲ要求シ蘇領内ハ蘇軍ノ行動自由ナリト
ノ建前ニテ右要求ハ二十九日ノ原狀ニ合スルモノト認メ居
リ先方ハ明カニ再ビ張鼓峰ニ進出スルヲ主張スル次第ナリ



289 昭和13年8月9日

在仏国杉村(陽太郎)大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

英仏両大使ガソ連最高幹部に對し対日戰を避
け歐洲の兵力を東アジアに送らぬよう勸告を
行つたとの情報について

パリ 8月9日後発
本省 8月10日前着

第四九七號(極秘)

「ブルム」首相時代其ノ祕書官タリシ「ブリュメル」ハ諜
報者ニ對シ

「七日莫斯科英、佛兩大使ハ蘇聯最高幹部ニ内密會見シ戰
争ヲセヌコト及歐洲ノ兵力ヲ東亞ニ送ラザルコトヲ勸告セ
ルニ對シ蘇聯政府當局ハ其ノ積リナリ日本ヲ參ラスニハ支
那丈ケデ充分ナリト答ヘタル趣又「ブリッヘル」及三名ノ
大佐ガ現地ニ於ケル強硬派ニテ中央ノ意思ヲ尊重セザル模
様ノ由ニテ「フエジコ」現地行ノ報モ事實トセバ其ノ爲ナ
ラン」ト語レル趣



290 昭和13年8月10日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

張鼓峰事件におけるソ連側強硬態度と国内事情
等により日ソ關係さらに悪化の可能性について

モスクワ 8月10日前6時8分發
本省 8月10日後8時0分着

第一〇九五號(至急、極秘)

今回ノ事件ハ「リュシコフ」逃亡ノ結果「ソ」側ニ於テ國
境守備ノ強化ヲ圖リタルニ發端スト思考セラルルモ先方ハ
漸次我方態度ヲ見透スト共ニ本件ヲ支那問題等トモ關連セ

シメテ考フルニ至リ

今日ニ於ケル彼ノ態度ハ

一、外交交渉上ニ於テハ彼ノ保有スル地圖ノ線ヲ維持シ之ヨ

リ外ニ日本軍ヲ撤收スルコトヲ主張シ話ノ餘地ヲ殘サズ

二、右ノ線以內ノ彼ノ所謂「ソ」領ノ確保ニ就テハ軍部ニ對

シ全權ヲ委任シテ必要ナル措置ヲ執ラシムルト同時ニ

三、黨部ハ「ソ」側ノ主張實現ノ爲ニ凡ユル策動及内外ニ對

スル煽動宣傳ヲ行フ

ト謂フニ在リト認メラル

右ノ强硬ナル態度ガ今後如何ニ推移スベキヤヲ考察スルニ

一方ニ於テハ「ソ」政權及軍部ノ内情ハ複雑ニシテ統制等

モ充分ナラズ

素ヨリ強力ナリトハ言ヒ難キノミナラズ政府トシテハ現政

權反對分子ガ本事件ヲ利用スルニ備フルノ必要モ生ズベク

加フルニ本事件ニ對スル世界ノ輿論ガ「ソ」側ニ漸次不利

ニ轉換シツツアルニモ鑑ミ現在ノ儘對峙的狀態ニテ推移ス

ルニ於テハ先方ノ内情乃至ハ眞ノ覺悟モ明瞭トナルベシト

認メラルルモ他方黨部及軍部ノ内部ニハ此ノ際對外戰爭ニ

ヨリ局面ノ打開ヲ策セント考フル者或ハ問題ヲ支那問題ノ

牽制乃至ハ對外赤化ト云フガ如キ更ニ大ナル「プログラム」トシテ考フル者モ出ヅベク從テ今日ニ於テハ威信ノ問題ヲ別トスルモ日「ソ」ノ關係益々惡化ノ可能性モ亦充分ナリ我方トシテハ飽迄冷靜ノ態度ヲ持スルコト必要ナルハ勿論ナルモ緊急ノ事態到來ヲモ考慮シ軍事的ノミナラズ輿論ノ指導其ノ他ノ方面ニ於テモ早キニ及ンデ萬全ノ準備ヲ整ヘ置クコト肝要ナリト存ズ

~~~~~

291

昭和13年8月[10]日

在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

同時撤兵の合意は不可能であり停戦のために  
は日本側より一方的に撤兵し事態の平静化を  
はかるべき旨意見具申

モスクワ 8月10日発

本省 着

第一〇九六號(大至急)

貴電第四八二號御訓令接到多大ノ感概ヲ以テ拜誦セリ

一、早速御趣旨ヲ申入ルベキモ其ノ結果ヲ豫メ考慮スルニ訓

令ノ要點即チ(イ)ノ停戦及兩軍引離ノ點ニ付テハ「リトビ

ノフ」ノ態度ハ終始一貫頑トシテ應ゼズ(曩ニ乾岔子事件ニ際シテ我方ノ執リタル態度ト同様)單ニ日本軍ガ彼ノ主張スル境界線外ヘ撤收スルコトヲ要求シ居ルコト御存ジノ通りニシテ右ハ日本側ノ態度ノ見透ヲ付ケタル今日少クトモ變化ナカルベシ

即チ双方撤收ニ關スル合意成立ノ如キハ先ヅ不可能ナリト判斷スルノ外ナシ(先方ハ乾岔子事件ニ於ケル我方ノ態度ト同様日本軍サヘ撤收スル事トナシ強イテ事ヲ起スノ意ナシト言フ位ノ事ハ或ハ言明スルヤモ知レズ)

從ツテ此際中央ニ於テ是非共停戰スルコトヲ主眼トセラルルニ於テハ我方ハ直ニ一方のニ撤收シ事實上對立ノ儘停戰シ漸次事態ノ平靜化ヲ計ルノ方法ヲ選ブノ外ナカルベシ

而シテ此ノ方法ガ今日帝國トシテハ最權威ヲ損スルコト少キ遣方ナリト思考セラル

之ニ反シ此ノ際先方の條件ヲモ容レ強イテ合意ヲ取付ケントスルガ如キハ將來對蘇關係ハ勿論帝國ノ對外地位全局ニ對シ忍ブベカラザル汚點ヲ止ムルコトナルモノト愚考ス

且又御訓令ノ趣旨ニ依ル交渉ヲ行フ時ハ恐ラク先方ハ我方ニ於テ愈々撤收ノ意アルヲ見做シ(固ヨリ本使トシテハ前回ト同様充分ニ注意致スベキモ)直ニ前線ニ手配シテ彼等ノ希望(蘇軍ハ日本軍ヲ擊退セリトノ建前ヲ執ルコトヲ熱望シ居ルベク又此ノ際事件ノ擴大ヲ希望スルモノアルベシ)ニ副フ軍事行動ニ遲滞ナク移ルコトアルベク或ハ交渉遷延ヲ策シテ右ノ如キ軍事行動ニ便セントスルヤモ測ラレズ(軍隊ノ大衝突アリタル今日トナリテハ先方ノ態度ハ窺知シ難シ)

從ツテ斯ル危險ヲモ慮リ今回申入ノ時期ヲ見計ヒ前線ハ直チニ一方のニ(先方ニ拘ラズ)撤收スル様御配慮相成ル事然ルベシ(即チ今回ノ申入ハ單ニ外交的及軍事的ノ「タクティック」トシテ利用スルノ意味ナリ)

三、<sup>(3)</sup>今回ノ御訓令中(ロ)ハノ點ニ付テハ委員會構成ノ點ハ兎モ角此ノ際琿春界約附屬地圖ヲモ先方ノ言フ意味ニテ承認スルニ至ル結果トナルコトハ將來ニ大ナル禍根ヲ貽ス次第ナレバ許スベカラザル點ニシテ前記自主的(一方的)撤收ノ方策ニ依ル場合ハ國境劃定ノ問題(元來國境劃定ナルモノハ我方ノ立場ヲ好クスル爲ニ持出シタル問題ニ過

ギズ)ハ將來ノ問題トナリ自然解消スベキニ付此ノ點ヨリ言フモ前記措置最モ適當ト信ス

三、元來此ノ種ノ國境衝突問題ニ付双方ノ合意ニ達スルガ如キハ殆ンド其ノ前例ナク(乾岔子事件モ同様)互ニ一方ノ措置ニ終ルヲ例トスル次第ナレバ若シ此ノ際我方ニ於テ至急停戦ヲ希望スルニ於テハ上記ノ通一方的措置ニ依ルコト最有利ニシテ賢明ナル策ナリト思考ス

切迫セル形勢ニ鑑ミ大至急右方針御採用ノ上御手配願度(會見ハ最高會議十日開會ノ次第モアリ先方ニ於テ遷延ヲ策スルヤモ知レズ早クトモ十日夜又ハ十一日朝トナル見込)

(尙決定次第電報ス)

292

昭和13年8月10日  
在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

### 停戦の合意成立について

モスクワ 8月10日後発  
本省 8月11日前着

第①  
一一〇七號(大至急、極秘)

交渉ハ左ノ條件ニテ纏マリタリ

一、十一日正午(蘇側沿海州時間)双方軍隊戦闘行為ヲ止ムルコト

二、日本軍隊ハ十日夜十二時(蘇側沿海州時間)現在ノ線(之ハ過去ニ遡ルノ意味)ヨリ一軒撤收スルコト、蘇軍隊ハ同時刻ニ於ケル現在ノ地位ノ線ヲ維持スルコト(右ハ日本軍ノ現在占據ノ地點ヲ考慮ニ入レタルモノナリ)

三、右協定ノ實行ハ現地ニ於ケル双方軍隊ノ代表者ニ於テ實行ニ當ルコト(戦闘停止後直ニ代表者會合シ得ヘシ)

293

昭和13年8月10日  
在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

### 停戦の合意成立に関する発表について

モスクワ 8月10日後発  
本省 8月11日前着

第①  
一一〇八號(大至急)

十日ノ會談ニ關シ左ノ通り發表ス

三時間ノ會談ニ依リテ蘇側ハ漸次日本側提出ノ具体案二步寄り停戦ニ關スル具体案ノ成立ヲ見タリ右確定ハ今夜中ニ

行ハル見込

在歐各大公使、米、伯、滿、壽府、浦潮へ轉電セリ

~~~~~

294

昭和13年8月10日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

停戦協定を確実に遂行するため各方面への措

置方要請について

モスクワ 8月10日後発

本省 8月11日夜着

第一一〇九號(大至急、極秘)

今次停戦取極ヲ故障ナク遂行スル爲萬全ノ措置ヲ講スル様
諸方面ニ對シ特ニ御配慮仰ク萬一不慮ノ事故發生ノ場合ハ
其ノ結果取返シノ付カサルコトナルヘキニ付右爲念
滿へ轉電セリ

~~~~~

295

昭和13年8月11日

在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

重光・リトビノフ第三次会談における停戦の

合意成立に至る経緯について

モスクワ 8月11日前発

本省 8月11日夜着

第一一〇九號(大至急)

本十日午後七時「リトビノフ」ニ面會交渉數時間ノ後往電  
第一一〇七號ノ條件ヲ以テ一應停戦取極ヲ取纏メタリ尙本  
使ハ之ニ對スル確答ヲ與フル爲二時間ノ餘裕ヲ留保シテ歸  
來(陸、海軍武官トモ協議)熟考ノ上更ニ折衝ノ結果往電第  
一一一〇號ノ通り受諾セシメタリ

本日ノ會談ニ於テ本使先ヅ前回「リトビノフ」ノ提案ナル  
モノニ付テ其ノ趣旨ヲ詳細ニ質問シタル後蘇側ノ主張スル  
境界線ヨリ双方軍隊ヲ一杆引離ス案ヲ提出シ種々折衝セシ  
處「リ」ハ日本軍側ノ境界線外撤收ガ問題解決ノ先決條件  
タルコトヲ繰返シテ毫モ譲ル模様ナカリシモ本使ヨリ本問  
題平和的處理ノ精神ニ依リ「リ」ノ提議ヲ充分ニ考慮セル  
具體案ナリトテ我方提案ヲ詳細解說シテ先方ノ説得ニ努メ  
タル結果「リ」モ種々考慮ノ上對案ヲ提出スルニ至リ大體  
往電第一一〇七號ノ通り一應纏メ次第後刻更ニ折衝ノ結果  
往電第一一一〇號ノ通り受諾セシメタル次第ナリ

尙其ノ際「リ」ハ國境委員會同時設立ヲ主張シ條約及附屬

296

昭和13年8月11日  
在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)日本軍が現在線から後退せず留まることにつ  
きソ連側了承について

モスクワ 8月11日前発

本省 8月11日夜着

地圖ヲ審議ノ基礎トスル旨頑強ニ主張シ次デ調停者トシテ  
第三國人ノ委員會加入ヲ主張セリ本使ハ調停者加入ノ如キ  
新ナル問題ヲ此ノ火急ノ場合ニ提出スルガ如キハ愈々問題  
ヲ複雑化スルモノニシテ交渉ヲ至急纏メントスルノ精神ニ  
合致セズトテ之ニ反對シ條約及地圖等ニ關シテモ種々論議  
スル所アリタルガ先方モ時間經過シ本日開會ノ最高會議出  
席ノ必要アル等ノ事情ニ依リ先方ヨリ先ヅ停戦ノ問題ヲ今  
日成立セシメテ國境確定ノ問題ハ更ニ引續キ提出スル旨申  
出デタルニ依リ本使ハ之ヲ機會トシテ國境委員會問題ヲ打  
切り停戦問題ヲ取纏メタル次第ナリ委細會談錄ニ依リ御承  
知アリ度シ(往電第一一〇七號本電同様轉電セリ)

~~~~~

在歐各大公使、米、伯、滿、壽府、浦鹽へ轉電セリ

第一一〇號(大至急)

往電第一一〇七號ニ關シ

日本軍ノ一料後退ハ其ノ後折衝ノ結果現在線ニ止マルコト
ニ先方ヨリ異存ナキコトヲ申越セリ右大至急前電訂正請フ
在歐大公使、米、伯、滿、壽府、浦鹽へ轉電セリ

~~~~~

297

昭和13年8月11日  
在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

重光・リトビノフ第三次會談要領

モスクワ 8月11日前発  
本省 8月11日夜着

第一一二號(大至急)

十日本使「リトヴィノフ」會談要領左ノ通り

(本使)

前回會談ノ内容ハ政府ニ報告セリ唯最後ニ貴方提案トシテ  
述ベラレタル點即チ「若シ双方ガ一定ノ線ヲ越エテ越境セ  
ザルコト及射撃セザルコトヲ約スルニ於テハ軍事行動ヲ停  
止スルコトニ同意ス若シ協定成立ノ時何レカ一方ガ右ノ線  
ヲ越エテ越境シ居ル場合ハ直ニ後退セシムルヲ要ス

右ノ線トハ琿春界約ニ依ル地圖ノ上ニ引カレタル線トス換言スレバ七月廿九日迄即チ戦闘開始迄ニ存在セル軍隊ノ狀態ヲ回復スルヲ要ス國境ニ於ケル靜謐回復後問題ノ地域ノ國境再確定ニ着手スルヲ得ベシ」云々トアル處右ハ貴我軍隊相對峙シ居ル狀態ヲ解除スル爲兩軍ノ戰鬥行爲ヲ中止シ右ノ線ノ双方ニ互ニ後退シ且再ビ之ニ接近セザルコトヲ約束スル意味ナリヤ尙貴方ハ國境ノ靜謐回復シタル後國境再確定ニ着手スルト言ハルルカ軍隊相對峙シ居ルハ危險至極ナリ依テ戰鬥行爲ヲ止メタル後之ニ着手スルコトニ同意セラルルモノト解シテ可ナリヤ

(リ)

只今貴使ノ述べラレタル所ハ前回自分ノ述べタル所ニ完全ニ一致ス但シ自分ハ貴使ガ附言セラレタルガ如キ趣旨ニテ話シタルニアラズ自分ハ琿春界約ノ線ヲ認メ之ヲ越ユルコトモナケレバ之ヲ越エテ射撃スルコトモナカルベシト述べタルノミニテ其ノ線ヨリ後退スルトハ言ハズ然シ日本側ニ於テ後退スルコトハ結構ナリ蘇側ハ事件前ニモ同地方ニ止マリ居タルモ自分等ハ滿側ニ向ツテ射撃シタルコトナシ他方ヨリ射撃セザレバ之ニ應ヘズ問題ノ國境ハ「デマルケイ

シヨン」ニアラズ「リデマルケイシヨン」ヲ爲スモノナリ此ノ點多少ノ差アリトテ從來ノ說ヲ繰返シ立場ヲ固執ス

(本使)

貴方ハ國境確定ニ異存ナキガ如キガ問題ノ線ノ兩側ニハ双方ノ軍隊對立シ居リテハ夫レモ不可能ナルニ付自分ノ案ハ此ノ狀態ヲ解除スル考案ニ付貴見ヲ伺ヒ度シ即チ琿春界約ニ依ル蘇側主張ノ線ノ兩側ヘ例ヘバ一杆ノ距離ヲ明ケテ双方ノ軍隊ヲ後退セシムルコトトシ靜謐ヲ取戻シ國境確定ニ着手スルコトニ付御異議アリヤ

(リ)

前回モ申シタル通り蘇側軍隊ノ後退ニハ反對ナリ蘇側領土ノコトナレバ蘇兵ハ其ノ欲スル所ニ駐兵スル權利アリ蘇側ハ滿(側)ニ向ツテ攻撃セルコトナク又セザルベキヲ以テ蘇兵ノ居ルコトハ國境確定ノ妨害トナラザルベシトテ前說ヲ繰返ス

(本使)

蘇兵ガ蘇聯領地ニ駐兵シ得ルコトハ勿論ニシテ右ハ日本側ニ付テモ同様ナリ唯双方ノ軍隊互ニ睨合ヒ居ル狀態ノ儘國境確定ヲ爲スコトハ不可能ニ類スルヲ以テ右確定終了迄一

時ノ便法トシテ右脱合ノ状態ヲ解除スルコト最モ實際的ト  
 思考ス即チ双方ガ小銃ノ射程距離外ニ在ル様問題ノ線ヨリ  
 双方一籽位ノ間隔ヲ置キ戰鬪行爲ヲ停止シ國境確定ヲ行ハ  
 ンコトヲ提議スルモノナリ是レ不幸ナル出來事ヲ平和的ニ  
 解決セントスル我方ノ熱烈ナル希望ナリ右案ニ依レバ蘇側  
 軍隊ハ實際上現在占據スル線ヨリ後退スルノ必要ナカルベ  
 キヤトモ思ハル(尤モ正確ナルコトハ現地ニアラザレバ判  
 明セザルモ)右ハ我方ノ大ナル讓歩ニシテ貴方ガ提議セル  
 所ヲ實質的ニ容レタルモノト言フモ不可ナシ本使ノ凡ユル  
 情報ニ依レバ日本軍ハ現在蘇側ガ蘇領ト主張スル線ニ在リ  
 蘇軍ハ蘇側ノ主張スル國境線ヨリモ東方二位スルトノコト  
 ナリ依テ日本軍ハ問題ノ線ヨリ西方一籽ノ所ニ後退シ蘇軍  
 ハ同ジク一籽東方へ後退スルト言フモ蘇軍ハ現在ノ占據地  
 點ニ鑑ミ或ハ左程後退ノ必要ナキ様ナリ斯クノ如ク日本軍  
 ノ後退ニ依リ蘇側ニ満足ヲ與ヘ且双方軍隊ヲ小銃射程外ニ  
 置ク案ナリ戰鬪行爲停止ノ細目ハ現地ニ於テ兩軍代表者間  
 ニ取極ルヲ可トス

(リ)

事變發端後ノ歴史ヲ言ヘバ貴使ハ最初張鼓峰ヨリ蘇兵ノ

(一字分アキ)

退ヲ要求セラレ我方ハ蘇領内ニ在ル蘇兵ヲ外國ノ要求ニ依  
 リ撤退スル能ハズトテ右要求ヲ拒絕セリ然ルニ貴使ハ今亦  
 右ト同様ノ提議ヲ爲サル、十二日間ニ亘ル日本軍ノ挑發的  
 行爲ニ對スル報酬トシテ曩ニ拒絕セル所ヲ受諾セシメント  
 考ヘラルルヤ否之ニ同意スル能ハズ、然レドモ若シ蘇側軍  
 隊ニシテ國境ヨリ東方ニ在リトノ御考ヘナラバ蘇軍ハ其處  
 ニ止リテ差支ナシ又日本兵ハ日本側ガ滿領ナリト主張スル  
 占領地點ヨリ一籽後退シ右空間地帶ニハ雙方立入ラザルコ  
 トニ同意ナリ唯右協定ハ誤解ナキ様一定ノ期間ヲ限ラザル  
 ベカラズ即チ蘇軍ハ本十日午後十二時(沿海州地方時)現在  
 ノ場所ニ止リ日本軍ハ同時刻ニ於ケル其ノ占據線ヨリ一籽  
 西ニ後退スルコトトシ雙方ノ軍隊ニ對シテハ八月十一日正  
 午(沿海州地方時)凡ユル戰鬪行爲ヲ停止スルコトヲ命ズ但  
 シ國境確定委員會ニ付テモ右停戰協定ト同時ニ協定スル必  
 要アリ

(本使)

停戰協定ノ實行ハ現地ニ於テ兩軍ノ代表者間ニ行フコト必  
 要ナルベシ

(リ)

協定ハ貴下ト自分トノ間ニ作レバ充分ニテ現地軍代表云々  
ノコトハ必要ナカルベシ

(本使)

唯實際問題トシテ現地ニ於テ何等誤解ナキヤ又豫期セザル  
コトノ發生セザル様双方軍代表ニ於テ打合ヲ爲スコト必要  
ナリト思考ス

(リ)

ソレニハ異存ナシ時ニ右停戰案ハ受諾セラレタリト思ヘ差  
支ナキヤトテ右提案ニ付テ質問應答シタル後

(本使)

少シク思ヘタキニ付二時間後ニ何分ノ確答ヲ致スコトト致  
シタシ

(リ)

次ニ國境劃定委員會ノコトナルガ右委員會ノ仕事ヲ效果的  
ナラシムルニハ第三國人ヲ入レザルベカラズ即チ蘇側代表  
二名、日滿側合セテ二名、外ニ外國ノ仲裁者一名ヲ以テ交  
渉セザルベカラズ勿論仲裁者ハ双方合意ノ者タルベシ

(本使)

夫レハ然々新シキ問題ニシテ此ノ際斯ル提議ヲ爲サルハ

問題ヲ復雜化スルノミナリ斯ルコトヲ今議論スルハ停戰ニ  
關スル話合ヲ長引カスノミナリ故ニ此ノ點ハ貴方ニ於テ撤  
回セラレンコトヲ希望ス

(リ)

尙國境委員會ノコトニ付キ其ノ事業ノ基礎トシテ支那及帝  
政露西亞ノ代表者ガ署名セル條約、地圖等ヲ基礎トナスコ  
ト必要ナリト思考ス

(本使)

唯今言ハレタル國境トハ繫爭地タル張鼓峰方面ノ國境ヲ指  
スヤ尙條約地圖等ハ勿論コレヲ委員會ニ於テ審議スルニ異  
存ナキモ右以外日滿側ノ有スル資料ヲ審查スルコト必要ナリ

(リ)

確定セントスル國境ハ素ヨリ貴說ノ如ク問題トナリ居ル繫  
爭地區ニ關スルモノナリ而シテ國境ハ當事國間ノ條約ニ依  
リテ決定セラルルモノニシテ其ノ以外如何ナル材料ヲ考慮  
ニ入ルルヤ了解シ難シ

(本使)

資料中ニテ最モ參考トナルハ條約ナルコト異存ナキモ條約  
以外ニ實際上ノ問題(標識、境界ノ石)ニ關スル資料ヲ集メ

蘇側ト同様委員會ニ於テ審議スベキモノト考フ我方トシテ  
條約ノ價值ヲ輕減セントスルモノナリ即チ條約ハ主ナル材  
料ナルガ其ノ他ノ材料モ排斥スベキモノニ非ズト言フ我方  
ノ主張ナリ

(リ)

國際條約ニ矛盾セザル材料ハ考慮シテ差支ナキモ條約ト矛  
盾スル場合ハ條約ノ方決定權ヲ有スベキモノナリ時ニ停戰  
取極ニ付テハ何等貴方ノ決定的回答ヲ得ラルベキヤ本日午  
後十二時ノ狀態ニテ戰鬪ヲ中止セントスル次第ナレバ成可  
ク早く承知シ度シ

(本使)

停戰協定ノ方ハ二時間内ニ回答シ得ベキガ他ノ問題ハ政府  
ニ報告ノ必要モアリ直ニ回答出來ズ(右ニテ一旦會談ヲ終  
ル 時ニ九時半ナリ)

十一時過ぎ約ニ依リ宮川ヲ「リ」ノ許ニ派遣シ

二日蘇兩軍ハ八月十一日正午(沿海州地方時)總テノ戰鬪行  
爲ヲ停止ス之ガ爲必要ナル命令ヲ發ス

三蘇軍ハ八月十日午後十二時(沿海州地方時)現在ノ線ニ留  
ルモノトス日本軍ハ同時刻即チ八月十日午後十二時(沿

海州地方時)占據セル線ヨリ西方ヘ一軒後退スルモノトス  
三戰鬪行爲停止後双方軍隊代表者會合シ必要事項ノ打合ヲ  
爲スモノトス

(二)? 同意ノ旨回答セシメタルニ「リ」ハ宮川ニ對シ自分ニ於

テ熟考ノ結果公正ノ觀念ヨリ日本軍ノミヲ一軒後退セシム  
ル必要ヲ認メズ從ツテ三ノ點ヲ「日蘇軍ハ八月十日午後十  
二時(沿海州地方時)現在ノ線ニ留ルモノトス」ト修正シ差  
支ナシト述ベタルニ依リ宮川ハ之ニ對シ大使モ右ニ異議ナ  
カルベシト思考スルモ爲念報告ノ上電話スルコトヲ約シ後  
電話ニテ應諾ノ旨且右修正ノ通既ニ本國政府ニ報告済ノ旨  
電話シタルニ「リ」ヨリ更ニ本使ノ來訪ヲ求メタルニ依リ  
十二時往訪シタルニ「リ」ハ停戰取極ノ了解事項ヲ「タイ  
プ」ニシタルモノヲ示シ之ニテ差支ナキヤト念ヲ押シ右ニ  
テ協定成立セリ)

次ニ「リ」ハ先程中絶セル委員會ノ話ナルガ(一)ハ委員會事  
業ノ基礎トシテ露支代表ノ署名セル條約地圖ヲ採用スベキ  
モノナルコト又委員會ノ構成中一名ノ仲裁者ヲ加フルコト  
ニ付テ更ニ管々シク先方ノ主張ヲ繰リ返シタルニ對シ本使  
モ委員會構成中滿側ガ日本一名滿洲國一名ノ代表者トナス

コトニハ同意スルモ第三國人ヲ入ルルコトニハ賛成出來ズ  
トテ斷リ停戰協定ノミ成立其ノ他ハ懸案トナレリ

在歐米各大使、在歐各公使、壽府、滿、浦鹽へ轉電セリ

298 昭和13年8月11日

### 軍事行動停止に関する情報部発表

軍事行動停止ニ關スル情報部発表

(八月十一日)

八月十日夜重光大使ハ「リトヴィノフ」外務人民委員ヲ往  
訪協議ノ結果

一、蘇側沿海州時間十一日正午双方戰鬭行爲ヲ停止スルコト  
二、日蘇兩軍ハ蘇側沿海州時間十一日午前零時現在ノ線ヲ維  
持スルコト

ニ關シ協定成立シ右實行方法ハ現地ニ於ケル雙方軍隊代表  
者間ニ於テ協議スルコトトナツタ

編注 本文書は、昭和十三年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十七輯より抜粋。

299

昭和13年8月13日

在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

### 平和的ジェスチャーとして日本側より国境画 定委員会の設立を提議すべしとの意見具申

モスクワ 8月13日後発

本省 8月14日前着

第一一二七號(極秘)

往電第一一二〇號ニ關シ

現在ノ事態ハ兩軍現状ノ儘ノ停戰ニシテ此ノ儘放置スルコ  
トハ不當ナルヲ以テ成ルベク速ニ國境劃定委員會ノ設立  
ニ移リ事態ノ落着ヲ計ルコト必要ナリト認メラルル處  
一、委員會ノ構成ニ付テハ「リトヴィノフ」ハ第三國人參加  
ニ關スル自己ノ提案ヲ撤回シ日滿各一名對蘇側二名ト言  
フコトニ本使ト「リ」トノ間ニ既ニ意見ノ一致ヲ見タル  
次第(往電第一一二二號末段及往電第一一二三〇號)ニシテ  
又

二、國境劃定ノ根據タル資料ニ付テハ先方ハ條約及附屬地圖  
ヲ基礎トシテ採用スベシト主張スルモノニシテ滿洲國側  
ノ所持スル條約及附屬地圖ヲ除外セントスルモノニハア

ラス從テ我方ノ方針(貴電第四五六號(一)及(三)トハ略一致  
スルモノト認メラル

三、依テ此ノ際我方ヨリ平和的「ジェスチユアー」トシテ進  
ンデ國境劃定委員會(土字界標ト第一記號トノ間ノ國境  
ヲ劃定スベキ)ノ設立方ヲ提議スル方一層有利ナリト思  
考セラルル處大體右ノ含ニテ措置シ差支ナキヤ爲念御電  
報相成度シ

~~~~~

300

昭和13年8月13日 在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

停戦協定成立に際してのソ連側譲歩の意図不
明により今後のソ連側出方には注意を要す旨

意見具申

モスクワ 8月13日後発
本省 8月14日前着

第一一三〇號

往電第一一三號ト第一一四號トノ間ニ左記電報挿入ア

り度

記

昨夕ノ交渉終リタル後本使ノ意ヲ傳ヘタル宮川ニ對シ「リ」
ガ日本軍ノ一杆後退ニ付テ從來我方ノ主張ヲ拒絶セシ所ヲ
進ンデ譲歩シタルハ何カ彼等ノ内部的都合ニ依ルモノナル
ヤモ知レザルモ差當リ國境委員會ノ設定ニ對シ本使ヨリ直
ニ何等カ代償的譲歩ヲ求メントセシニ出デタルハ宮川歸來
後直ニ本使ト引續キ國境問題ニ付夜半交渉ヲ進メタルニテ
モ明カナリ然シ或ハ幾分日蘇將來ノ關係ニ資セントスル考
慮ニ出デタル點モアルヤモ知レズ何レニシテモ其ノ後先方
ノ出方ハ注意ヲ要ス尙國境問題ハ先方ニ於テ材料(條約地
圖)ノ點ヲ固執シ第三者ノ仲裁ノ件ヲ譲歩本使ニ於テ組織
ノ點ニ於テ讓リタル形トナリ居レリ
在歐米各大使、壽府、滿へ轉電セリ

~~~~~

301

昭和13年8月16日 宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

現地日ソ兩軍による折衝の完了について

本省 8月16日發

第五〇八號(極秘、至急)

軍ニ於テハ十二日ノ覺書調印ト其ノ實行トヲ以テ現地兩軍

代表間ニ於テ處理スベキ事柄完了セリト認メ現地折衝ハ之ヲ以テ一先打切り今後例ヘバ不足屍體引渡ノ如キ問題ニテ現地會見ノ必要ヲ生ズル場合ニ於テハ不慮ノ紛糾ヲ避クル爲中央ニ電報シ外務省ヲ通ジ「モスコ」又ハ浦潮等ノ外務機關ヲ經由シテ其ノ意向ヲ相手側ニ通告スルコトニ手配濟ナリ就テハ至急「ソ」政府當局ニ右ノ旨ヲ通報相成ルト共ニ「ソ」外ニ於テモ現地兩軍代表ノ會見ヲ欲スル場合ハ同様ノ手續ヲ執ル様申入ラレ度

浦潮ヘ轉電セリ

302 昭和13年8月16日 宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

日ソ戦死者の遺体交換実施後における行方不明  
者調査並びに引渡しにつきソ連側へ依頼方訓令

付記 昭和十三年八月十九日、情報部第二課作成

「張鼓峰事件經過概要」

本省 8月16日發

第五〇九號(至急)

兩軍戦死者ノ屍體交換ハ十三日午后五時ヨリ七時半ニ亘リ

張鼓峰東南稜線上ニ於テ嚴肅ニ行ハレタルガ我方各部隊ノ行方不明者五十九名ト受領屍體四十名トノ差十九名ニ付調査竝ニ引渡方外務當局ニ申入ラレ度(軍側ノ意見ニ依レバ右十九名中ニハ砲彈ノ爲粉碎セラレタルモノ又ハ張鼓峰附近ノ敵ノ線後ニ突入シテ負傷人事不省ニ陥リ收容セラレタルモノアルベキ趣御含迄)

尙松島憲兵伍長ノ屍體ニ付テモ重ネテ申入レラレ度

滿ヘ轉電セリ

(付記)

昭和十三年八月十九日

張鼓峰事件經過概要

情報部第二課

目次

(一)發端

(二)滿側ノ對蘇抗議

(三)日本側ノ對蘇抗議

(四)重光・「リトヴィノフ」第一次會談

(五)第一次會談公表サル

(六) 三十日迄ノ現地ノ狀勢

(七) 我軍張鼓峰ヲ占據ス

(八) 戰況(二日)

(九) 戰況(二日)

(十) 戰況(三日)

(十一) 戰況(四、五日)

(十二) 四日迄ノ外交々涉經過

(十三) 戰況(六日)

(十四) 戰況(七日)

(十五) 重光・「リトヴィノフ」第二次會談

(十六) 戰況(八日)

(十七) 戰況(九、十日)

(十八) 停戰協定成立

(十九) 現地協定

(二十) 我軍豆滿江右岸ニ引揚ク

# 張鼓峰事件經過概要

## (一)

七月十日午後一時ヨリ午後三時ノ間ニ亘リ約十四、五名ノ

蘇聯兵滿領張鼓峰ヲ占據シ、翌十一日ニハ約三十名ニ、更  
二十三日ニハ右占據兵約四十名ニ達シ馬二十頭ヲモ數フル  
ニ至リ、同峰東北側中腹ニ天幕ヲ設ケ同峰山頂ニ於テ陣地  
構築シ居レリ。

## (二)

依ツテ十四日午後五時十五分滿洲國外務當局ハ駐哈下村特  
派員ニ對シ同地駐在蘇聯「クズネツオフ」總領事代理ニ嚴  
重抗議方訓電セルカ、下村特派員ハ同日午後十一時半右訓  
令ニ基キ「ク」總領事代理ニ抗議ヲ申入レタルモ「ク」ハ  
之ヲ中央ニ傳達スヘキモ真相判明スル迄抗議ノ受理ヲ留保  
スル旨答ヘタリ。

## (三)

次テ翌十五日正午在莫斯科西代理大使ハ本省ノ訓令ニ基キ  
「ストモニヤコフ」外務人民委員代理ヲ往訪、右占據地ヨ  
リ蘇兵至急撤退方申入レタルカ、「ス」ハ右事件ヲ承知シ居  
ラス早速極東地方官憲ニ照會シ事情判明次第公式ノ回答ヲ  
ナスヘシト述ヘ一應會談ヲ打切リタルカ同日午後十一時半  
求メニ依リ西代理大使ハ「ス」ヲ往訪、「ス」ハ蘇側ノ有ス  
ル琿春界約議定書竝ニ附屬地圖ニ依レハ國境線ハ張鼓峰ノ

頂上ヲ通過シ居ルヲ以テ其ノ占領ヲ撤去シ能ハス、今次事件ハ日本側ニ於テ蘇兵ノ自國領内ニ於ケル行動ニ對シ誤リタル情報ニ基キ不當ナル要求ヲナスモノトシテ我方申出ヲ峻拒セリ。

他方同日午後四時過張鼓峰東南中腹ニ於テ偵察中ノ龍峴憲兵隊伊藤軍曹、松島伍長他三名蘇兵ヨリ突如射撃ヲ受ケ松島伍長射殺サレ、他一名負傷セル事件發生、右ニ關スル情報折柄西代理大使ト會談中ノ「ス」ノ許ニ達セルカ、「ス」ハ日本側カ誤レル情報ニ基キ事態ヲ人爲的ニ紛糾セシメタル結果斯ル不詳事<sup>(詳カ)</sup>ヲ發生セル次第ナリトシテ遂ニ抗議シ來レルヲ以テ西代理大使ハ本件ニ關シ政府ノ訓令ヲ俟チ正式ニ申入ルル所アルヘキモ本件ハ十一日以來ノ蘇側ノ挑撥ニ源ヲ發スルモノナリト應酬セリ。

十八日滿側ニ於テハ從來事實上認メラレ居タル嶺ノ東側道路迄撤退方交渉スルニ決シ、右ノ旨同日夜刻下村特派員ヲシテ「ク」總領事代理ニ對シ申入レセシメタル處「ク」ハ琿春界約ヲ楯ニ蘇側ハ蘇領タル同地點ヨリ撤兵スルノ要ナシト答ヘ、尙「ク」ハ翌日歸國ノ途ニ就ク次第ニテモアリ本件ハ莫斯科ニテ日蘇間ニテ交渉スル方可ナルヘシト會

談ヲ打切りタリ。

#### (四)

越エテ二十日午後二時重光大使「リトヴィノフ」外務人民委員ヲ往訪右占據地點ハ滿洲國政府ノ有スル資料竝ニ我方ノ有スル舊帝政時代ノ資料竝ニ同地方ニ於ケル永年ニ亘ル慣習ニ依ルモ滿洲領タルコトハ明カナルヲ以テ至急張鼓峰方面ノ占據兵ヲ撤シ十一日以前ノ原狀回復<sup>(復)</sup>方要求セルモ「リ」ハ之ヲ拒絶シ蘇側ノ有スル地圖ハ張鼓峰ノ頂上ヲ通過スルヲ以テ蘇側ニ於テ同地方ヲ占據シ得ルコトヲ主張シ、我方ニ於テ理ヲ盡シタル交渉ニ拘ラス最後ニ於テ「リ」ハ本問題ニ付テハ蘇側ヨリ之以外ノ回答ナキニ付キ更ニ談合ノ余地ナシト繰返シ、極言セルカ、重光大使ハ假令國境線カ山頂ヲ通過スト假定スルモ一方ニ於テ之ヲ占據スルハ許スヘカラサル所ナルヲ指摘シ蘇側カ右主張スル國境ヲ武力ヲ以テ擁護スルト同様ニ日本側モ從來通り滿洲國境ヲ武力ヲ以テ維持シ得ルコトヲ警告セリ。

#### (五)

次イテ翌二十一日夜莫斯科放送局ハ右重光「リトヴィノフ」會談ノ内容ヲ發表シ又二十二日東京竝ニ莫斯科ニ於テ右會

談内容ニ關スル當局發表アリタリ。

(六)

他方現地ニ在リテ十七日夜交渉ノ爲鮮人二名ヲ入蘇セシメタルモ二十六日ニ至ル迄之ヲ歸還セシメサル等ノ不法行爲ヲ敢テシ、二十一日、二十四日竝ニ二十八日ノ報告ニ依ルモ依然越境作業繼續セラレ張鼓峰山頂ヨリ滿領内ニ、三十米ニ鐵條網ヲ張り繞ラシ作業漸次露骨ニ見受ケラルルニ至リ、又近接國境各地點ニ於テ蘇聯軍用機、乘馬兵、斥候等ノ越境頻々トシテ行ハレ居リタル處、二十九日午前九時半沙草坪西南方約一糎ノ地點ニ於テ蘇聯兵約十名滿領内約八〇〇米ニ不法侵入陣地ヲ構築セントシ居ルヲ以テ同日午後三時半鮮内守備隊約五十名ハ同陣地ニ突入蘇聯兵八、九名ヲ斃シ之ヲ奪取セルカ午後四時五十分頃ヨリ輕戰車數臺出動シ來リ我方ニモ若干ノ死傷ヲ出タセリ。其ノ後我守備隊カ紛爭ヲ避ケントシテ特ニ沙草坪西南高地(國境線ヨリ一糎)ニ後退スルヤ蘇側ハ國境ヨリ約五十米前進シタル地點ニ迄進出シ我射撃ヲ受ケ停止シ、散兵濠竝ニ輕易ナル鐵條網ヲ構築占領セリ。

尙此ノ間二十九日、三十日ノ兩日ニ亘リ蘇聯軍ハ盛ニ増兵

ヲ行ヒ、其ノ主力ヲ張鼓峰東北側長池東方地區ニ集結シ、二十九日午後四時迄ニ於テモ既ニ兵約千名(内騎兵一五〇)砲門一四、戰車約一〇臺ニシテ二十四日以後ノ現有兵力約五〇〇ヲ合セ約一五〇〇ニ達セリ。

(七)

次イテ三十一日午前一時五十分ヨリ張鼓峰附近一帶及同峰ヨリ沙草坪ノ間ニ亘リ日蘇兩軍衝突シ激戰數時間ニ亘リ午前五時十五分遂ニ我軍ハ沙草坪南側高地ヲ占據シ同六時張鼓峰及長池寄りノ高地一帶ヲ占據シ遺棄セラレタル蘇側戰車十臺銃彈多數、輕機竝砲各二門其ノ他ヲ鹵獲セリ。

尙蘇兵死体六十名以上ヲ算シ我方又戰死者三十名外負傷者若干ヲ出セリ。其後彼我戰鬪ヲ休止シ、蘇軍ハ主力ヲ「克蘭チン」方面ニ集結シ居レリ。

翌一日午前四時五十分頃蘇軍水流峰ノ我陣地ニ逆襲シ來リタル他、正午ヨリ午後四時ニ亘リ同峰ニ對シ間斷ナク砲撃ヲナセルカ、此ノ間午後零時半「ヤンコホウサ」飛行場方面ヨリ蘇軍用機十三飛來張鼓峰竝ニ水流峰ヲ爆撃又十九機黑頂子高地ニ投彈、又午後二時三機會中原ニ飛來爆彈一個ヲ投シ、同五分一機慶興西山ニ爆彈一、同シク慶興下流二一

個投彈セルカ、同午後二時三十八分ニ至リ蘇軍用機二十四  
煙秋方面ヨリ博石洞上空ヲ經テ張鼓峰上ニ飛來、我陣地ニ  
爆彈十個ヲ投下シ、古城附近ヨリ鮮内ニ越境、内十三機ハ  
慶興上空ニ飛來、同地附近、慶興橋、水流峰等ニ爆彈數十  
個投下シ、又十一機ハ洪儀驛南方四杆ノ鐵道ニ二十八個投  
下、内一個ハ「ルール」ニ命中之ヲ破壊シ又同時ニ電柱モ  
破壊セラレ、羅津洪儀間ノ電信電話不通トナレリ次イテ同  
午後四時十五分重爆機十三龍峴方面ニ越境内一機ハ鮎浦洞  
ニテ、又他ノ一機ハ晚浦ニテ我方ニ依リ擊墜セラレ、搭乗  
者一名落下傘ニテ降下セルモ拳銃ニテ抵抗セルヲ以テ射殺  
セラレタリ。尙一日夜ハ現地及東興鎮以南國境線ニ於テハ  
大体事故ナク經過セリ、

(八)

此日莫斯科ニ於テハ宮川書記官「ツアラプキン」日本課長  
ニ會見沙草峰事件ニ關スル抗議竝ニ松島伍長屍体返還要求  
方申入レタルカ「ツ」ハ自分トシテハ何等回答ヲナシ得ル  
立場ニアラス、詳細「リ」外務人民委員ニ報告スヘシト答  
ヘタリ。

(九)

二日早朝ヨリ蘇機ノ飛來再三ナラス同日午前五時過慶興、  
張鼓峰方面ニ偵察飛行ヲナシ、同六時半ニ至リ蘇機數臺九  
沙坪上及其ノ附近一帶ノ國境地帶ヲ爆撃、次テ同七時十三  
分十三機回忠院二五、六個ヲ、又同四十分ニハ八機大平川  
道路上一帶ニ向ケ十二、三ヲ投彈シ、又八時二十分ニハ數  
機慶興上空ニ飛來シ來レルカ、我方モ飛行機ヲ我吾地ニ進  
出セシメ、午後ニハ蘇機ノ活動モ鈍レリ。地上軍ハ朝來張  
鼓峰古城ニ又午後ハ水流峰ニモ夫々砲撃ヲ續行シ來リ五二  
高地ニ於テハ蘇軍一杆我方ニ接近攻撃ヲナシ、洋館坪南側  
高地ニ於テハ我陣地前後一五〇米迄近迫シ來レルモ我軍之  
ヲ擊退午後三時頃蘇軍ハ右陣地前六〇〇米迄後退セリ。次  
テ日沒ニ至リ蘇機十數臺並砲兵右兩地點ニ對シ齊射ヲ行ヒ、  
午後七時敵ハ約一大隊半ヲ以テ襲撃シ來リ五二高地附近ニ  
テハ手榴彈ニ依リ白兵戰行ハレタルモ我軍之ヲ擊退、此ノ  
間沙草坪陣地ハ我方ニテ確保シ敵ト相對峙シセリ、尙此ノ  
日、蘇側ハ張鼓峰前面馬腰山、其他香山洞方面ヲ合セ戰車  
約一三〇ヲ有セリ。

(十)

次テ翌三日午前十一時頃迄相當頻繁ニ砲撃續行セラレ、其

後緩慢トナレルモ、午後九時竝ニ同十一時ノ兩度ニ亘リ鮮内松乙峰ヲ砲撃シ、一方鮮軍漸次後退シ、我方ハ瑾春界約ノ線ニ依リ双方一千米ヲ距テ相對峙セリ。此ノ日蘇機ノ飛翔少ク朝ニ臺飛來セルノミナルカ、他方蘇軍戰車ハ其數ヲ増加シ約二〇〇臺ニ達セリ。

## (一)

四日五日ノ兩日ハ蘇機ノ飛來少ク、四日ニハ午午後ノ二回、又五日ニハ早朝竝ニ午前十一時頃トノ兩度ニ亘リ偵察飛行ヲナセルカ砲撃ハ依然熾ニ行ハレ四日午後五時過ヨリ四時間半ニ亘リ水流峰ヲ又五日午前三時頃ヨリ再ヒ同峰竝張鼓峰ニ向ヒ間斷ナク砲撃シ來レリ、

## (二)

此ノ間、二日滿洲國側ニ於テハ下村特派員ヲシテ文書ヲ以テ蘇側ノ不法行為ニ重ネテ抗議ヲ申入レシメタル他、同日莫斯科ニ在リテハ宮川書記官「ミローノフ」極東部長ニ會見蘇側ノ挑發行為ニ對シ抗議セルカ、一方蘇側モ東京ニ於テ「スメターニン」ヲ通シ同様態度ニ出テ來レリ。

越エテ四日午後一時重光大使ハ「リトヴィノフ」ト會見戰鬪行為停止ニ關シ申入レヲ爲セルカ「リ」ハ日本軍ノ張鼓

峰其他ノ地點ヨリノ引揚等ヲ要求會談物別レトナレリ。尙右會見内容ハ日蘇兩側ニ於テ公表サレ且蘇ハ署名入りノ地圖ヲ公表セリ。

## (三)

他方現地ニ於テハ六日長池ニ在ル蘇軍ハ午前五時頃ヨリ張鼓峰ニ對シ砲撃ヲナシ水流峰モ同様砲撃ノ的トナリ又霧ニ經レテ五〇〇高地前面ヨリ張鼓峰前面長池ノ西ニ進出セル鮮軍約一大隊ハ我軍ノ反撃ニ依リ大打撃ヲ受ケ長池東ニアリタル蘇軍戰車約五〇臺ハ我方ノ砲撃ニヨリ相當ノ被害ヲ受ケタリ。此ノ間敵重爆機二ハ東興鎮ヲ爆撃次テ午後二時過蘇機十二、三鮮内ニ越境、慶興西北下汝坪ニ爆彈約四十、白顏二十二、三、穩溪二約二十、又古城ニハ多數ノ爆彈ヲ投下セルカ、同二時半再ヒ輕爆十九機ヲ以テ張鼓峰沙草坪、四會、洪儀、甌山ヲ爆撃午後三時輕爆機十二ヲ以テ下汝坪ヲ、同三時半重爆機十七ヲ以テ張鼓峰沙草坪ヲ、午後四時重爆二十四ヲ以テ豆滿江右岸地方ヲ夫々爆撃セルカ、此ノ内一機古城附近ニテ我軍ニ依リ擊墜セラレ搭乗者一名落下傘ヲ利用シ蘇領方面ニ逃亡セリ。次テ蘇軍地上部隊ハ午後七、八時頃ニ至リ約一小隊ヲ以テ洋館坪ニ越境之ヲ占據セ

ルカ、夜十時頃ヨリ相當ノ大部隊ヲ以テ張鼓峰沙草坪方面ニ逆襲シ來レルカ、我方ハ之ヲ擊退因ツテ蘇軍ハ張鼓峰前面三百米ノ地點ニ陣地ヲ構築セリ

(五)

翌七日蘇軍ハ再ヒ張鼓峰ヲ攻撃シ來リ、其都度我軍ニ依リ擊退セラレ洋館坪北方滿領高地ヲ占據セル蘇軍ハ次第二増加シ彼我ノ砲擊依然繼續セラレ居タルカ、午前中二度蘇機來襲龍峴憲兵屯所ニ對シ對地射擊ヲ加へ、四會ヲ爆發セルカ、午後二至リ蘇機ノ來襲頻々トシテ正午ニハ慶興上空ニテ低空飛行ニヨリ猛烈ナル對地射擊ヲナシ、住民負傷者二、三名ヲ出シ、又慶興橋附近モ五、六個、同二時半八機ハ慶興西北三杆豆滿江岸二十數個爆彈ヲ投下シ、尙洪儀驛、竝ニ其砲兵陣地、渡航場、張鼓峰、水流峰、五河子等モ爆發セラルル處トナレリ

(六)

莫斯科ニ於テハ六、七兩日ニ亘リ重光大使ハ「リ」二面會方申込メルモ外出ヲ理由トシテ之ニ應セス、七日午後五時半漸ク會見ノ運ヒトナリ、同日午後九時迄交渉ヲ續行セルカ、蘇側ハ事件ノ擴大ノ意思ヲ表明シツツモ琿春界約附屬

地圖ノ線ヲ固執シ其ノ線外ニ日本軍ノ撤退ヲ以テ戰鬪行爲中止ノ先決問題ナリ主<sup>(ト)</sup>張シ會談再ヒ物分レトナレリ。

右會談内容翌八日日蘇兩側ニ於テ公表セラレタリ。

(七)

八日現地ニ於テ、午前一時ヨリ蘇軍ノ張鼓峰砲擊開始セラレ、同七時頃ヨリ益々熾トナリ、又水流峰モ午前十一時ヨリ蘇軍ノ砲火ヲ受ケタルカ、午後二時十五分ヨリ約半時間ニ亘リ、蘇機四十五臺、張鼓峰、古城、慶興、水流峰上空ヲ旋包多數ノ爆彈ヲ投下シ、同午後四時頃再ヒ二十機ヲ以テ慶興<sup>(興カ)</sup>ニ飛來、之ニ對地射擊ヲ加へ、内一機ノ投シタル爆彈ニ依リ小使一名即死、住民二名負傷シ、四會洪儀モ又右空襲ヲ受ケタリ、一方沙草峰、張鼓峰ハ依然我方ニ依リ確保セラレ、彼我ノ砲擊ハ緩漫ナリシカ夜半十一時二至リ張鼓峰前面長池西方ニ進出シ居リタル蘇兵約一中隊張鼓峰ニ對シ夜襲シ來リ我方ハ之ニ殲滅的打撃ヲ與ヘリ。

此ノ日東京ニ於テ井上歐亞局長ハ「スメタニン」代理大使ニ對シ蘇側不法行爲ニ關シ抗議ヲナセリ。

(八)

九日夜蘇軍ハ五二高地及張鼓峰高地ニ對シ戰車、機關銃、

山砲ヲ有スル歩兵約二個大隊ヲ以テ逆襲激戰繼續セラレタルカ我軍ハ依然同地ヲ確保シ居リタルカ翌十日中約蘇軍ハ七時十分爆撃機十余臺ヲ以テ水流峰、張鼓峰、古城方面ヲ爆撃次テ再ヒ四機ニテ水流峰上空ヨリ飛來、古城張鼓峰ニ對シ對地射撃並爆撃ヲ加ヘリ

(六)

莫斯科ニ於テハ十日午後七時ヨリ同十時迄三時間ニ亘リ交渉ノ結果蘇側ハ漸次日本側提案ニ歩ミ寄り同午後十二時再度ノ會見ニ依リ左記要旨ニテ停戰協定ノ成立ヲ見タリ。即チ

一、十一日沿海州地方時間正午ヲ期シ日蘇兩軍ハ軍事行動ヲ停止ス

二、兩軍ノ停戰スヘキ場所ハ十一日午前零時現在ノ線トス  
三、協定ノ實行ハ現地ニ於ケル兩軍ノ代表者ニ於テ之ニ當ルコト

尙「リ」ハ琿春界約及附屬地圖ヲ審議ノ基礎トスル國境委員會ヲ同時ニ設立シ、且第三國人ノ委員會參加ヲ主張セルモ此等ニ關シテハ交渉ヲ打切りタリ。

(七)

斯クテ十一日午後八時現地ニ於テ日本側代表步兵第七十四聯隊長長大佐、蘇聯側代表「ステルン」兵團大將トノ間ニ  
一、日蘇兩軍ハ現在線ニ於テ嚴ニ戰鬪行為ヲ停止スルコト  
二、兩軍内ノ屍體ハ兩軍ニ於テ夫々收容スルコト  
三、兩軍ノ現在線ハ十二日正午更ニ確認協定スルコト  
トノ要旨ノ協定ヲ逐ケタリ。

次テ十二日正午ヨリ現地代表者ノ第二次會見ヲ行ヒタル際蘇側代表ハ日本兵約四十名約百米進出セリト抗議シ來リ、午後四時我方代表ノ再ヒ現地ニ赴キタル處、蘇側ハ我陣地前約五米ノ附近ニ進出、散兵壕工事ヲ實施機關銃數臺ヲ構ヘ將ニ戰鬪行為ニ及ハントスルカ如キ態勢ヲ示シ同線ヲ第一線ト主張セルカ、右蘇側ノ抗議ハ日本側ニ於ケル後方ヨリノ糧食運搬ヲ誤解セルモノナルモ、我方ハ敢テ議論スルヲ避ケ蘇側ノ前進セリト稱スル地域ヨリ一個中隊ヲ引揚ケルト同時ニ先方カ停戰協定時ノ線即チ我方八十米ノ地ニ後退スヘキコトヲ要求シ、雙方現認ノ下ニ之ヲ實行シ、之ト共ニ我方ハ午後九時ヲ期シ張鼓峰前線ノ撤收ヲ敢行、午後十一時兩軍ノ停戰及離隔ニ關スル覺書ニ調印セリ。右覺書ノ内容ハ左ノ如クテアル、

一、張鼓峰北方ノ現狀ニ關シ兩國政府ニ通報スルコト  
二、停戰協定ニ關スル日蘇間ノ取極ニ依リ張鼓峰附近ニ於  
テ事件ヲ起ササル様兩軍代表ハ萬全ノ措置ヲ執ルコト  
三、日蘇兩軍ハ八月十二日午後十時ヨリ張鼓峰北方ニ在ル  
兩軍ヲ稜線ヨリ八〇米以上ノ線ニ後退セシムルコト  
尙十三日蘇側ノ希望ニ依リ更ニ二十二日ノ現地踏査ニ基ク停  
戰時ノ態勢ヲ地圖ニ明記ノ調印交換スル筈ニテ正午兩軍代  
表ノ第三次會見ヲ行ヒタルモ、蘇側ハ飽迄自説ヲ固執シタ  
ル爲圖上記入ハ之ヲ取止メ右交渉ヲ打切レリ。

(甲)

十四日我方ハ將軍山ニ若干ノ監視兵ヲ殘シ部隊ヲ豆滿江右  
岸地區ニ移動集結シ嚴ニ事態ヲ監視スルコトニ成レリ。  
又十一日ノ協定ニ基キ十三日午後五時ヨリ屍體交換行ハレ  
午後七時ヲ以テ之ヲ終了シ、松島憲兵伍長ノ屍體ハ戰鬭開  
始前ノ事ニ屬スルヲ以テ外交々涉ニ移スヘキ旨回答シ來レ  
ルヲ以テ懸案トシテ殘シ、斯クテ月余ニ亘ル張鼓峰事件モ  
一應解決セラルルニ至レリ。



303

昭和13年8月17日 宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

国境画定委員会の方針決定に伴いソ連側と協

議開始方訓令

本省 8月17日發

第五一六號(極秘、大至急)

往電第五〇〇號ニ關シ

關係各方面トモ協議ノ上國境劃定委員會ニ關シ左ノ通方針  
決定シタルニ付右ニ依リ至急「ソ」側ト話合ヲ進メラレ度

一、委員會ノ構成

委員ハ日本國一名、滿洲國一名、「ソ」聯二名トス

二、委員ノ輔佐員

日滿側及「ソ」側ハ何レモ十名ヲ超ヘサル範圍ニ於テ專  
門家、技術員、書記及通譯ヲ帶同スルコトヲ得(必スシ  
モ同數ナラストモヨシ但先方ニ於テ同數ヲ主張スルトキ  
ハ十名以內ニ於テ同數トシテ可ナリ)

三、劃定ノ範圍

土字界牌ヨリ第一記號迄トス

四、準則

琿春界約、同附屬交界道路記文及附圖(「ソ」側ノ提示セ  
ル地圖ノミヲ指スニ非ス)、其他ノ資料

# 五、劃定ノ方法

(イ)國境線上原則トシテ五百米ノ間隔ヲ以テ新中間界標ヲ  
建ツ必要ノ場合ニハ右中間界標間ニ適當ノ位置ニ補助  
界標ヲ建ツ

(ロ)國境線ヲ明瞭ナラシムル其他ノ施設トシテ溝ヲ掘鑿ス

# 六、委員會ノ作成スヘキ文書

(イ)界標及施設ニ關スル調書及見取圖

(ロ)國境地圖(二萬五千分ノ一)

(ハ)國境ノ一般的記述

# (ニ)會議議事録

# 七、委員會ノ特權

委員及輔佐員ハ身体及文書ノ不可侵ヲ享有シ課稅及公課  
ヲ免除セラレ任務遂行上必要ノ都度相手國領土ニ立入ル  
コトヲ許可セラル尙制服ヲ着用シ其ノ身分ニ屬スル武器  
ヲ携帯スルコトヲ得又宿舍、通信、交通ニ關シ便宜ヲ供  
與セラルヘシ  
ハ、費用ノ負擔

双方共同ノ費用ニ付テハ均等ニ分擔ス

# 六、發表

委員會ノ議事ハ祕密トス委員會ノ議事又ハ業務ニ付發表  
ノ要アル時ハ双方委員ノ承認ヲ經タル「コンミュニケ」  
ヲ以テ之ヲ爲ス

滿ハ轉電セリ



304 昭和13年8月18日

在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

張鼓峰事件事実上一段落により国境画定委員  
会の方針決定に関する訓令は部外秘とすべき  
意見見具申

モスクワ 8月18日後発

本省 8月19日前着

# 第一一六九號(大至急)

紛争地國境劃定委員會ノ問題ハ往電第一一二五號會談ノ際  
モ「リトヴィノフ」ヨリ何等催促ナク本使モ態ト本問題ニ  
觸レサリシ次第ナルカ他方張鼓峰前線ニ於テハ既ニ衝突ノ  
惧ナキモノノ如ク國境紛争ハ事實上一段落ヲ見タル次第ナ

レハ今後國境問題ニ關スル話ヲ持出ストセハ新ナル見地ヨリ攻究スル必要ヲ認メ居ル次第ナルニ付本件御訓令ハ未タ全部接到セサルモ右發訓ノ事實乃至訓令ノ内容等一切新聞等外部ニ洩レサル様御取計相成度ク右不取敢

305

昭和13年8月21日 在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

國境画定委員會に關する日本側方針案に對し理  
春条約付屬地圖を基礎として作業を行うことを  
明記すべしとのリトビノフの主張について

別電 昭和十三年八月二十一日發在ソ連邦重光大使

より宇垣外務大臣宛第一一八九號

右日本側方針案

モスクワ 8月21日發

本省 8月22日前着

◎第一一八八號(至急)

廿一日<sup>(1)</sup>「リトヴィノフ」ト會見

ト本使ヨリ

國境劃定委員會ノ問題ニ付テハ前々回會談ノ際雙方ノ意

見ハ大分接近シタルカ其ノ會談ノ内容ニ付テ日本政府ハ篤ト攻究シタル後日蘇ノ關係ヲ出來得ル丈ケ友好的ニ調節セントスル一般的希望ニ基キ本件ニ付テモ蘇側ノ主張ヲ成ルヘク考慮ニ容レ茲ニ提案ヲ爲スコトナレリ即チ本使ハ政府ノ訓令ニ基キ次ノ如キ具體的提案ヲ爲スモノナリ

ト述ヘテ別電第一一八九號(各項ノ標題ハ附セス)ノ項目ヲ宮川ヲシテ讀上ケシメ之ヲ先方ニ提出セリ

三、<sup>(2)</sup>「リ」ハ右申入ノ精神ヲ多トスル旨ヲ答ヘタル上内容ニ付二、三質問ヲ試ミタル後右提案ハ少カラス専門的事項ヲモ包含スルヲ以テ篤ト協議ノ上ニテ回答スルコトトスヘキモ重要ナル事項ニ付蘇側ノ態度ヲ明カニスヘシトテ別電第一一八九號ノ四、(先方ニ提出セシモノハ前記ノ如ク標題ハナシ)ニ付テ議論ヲ持出シ審議ノ基礎タルベキモノハ露支間ニ締結セラレタル條約取極及附圖以外ニアリ得ズ其ノ他ノ資料ハ未ダ之ヲ見タルコトモナク又之ヲ考慮スルコト當ラズ從テ右ノ趣旨ヲ明確ニスル必要アリト主張シ本使モ之ニ對シ御來示ニ依ル主張ヲ繰返スコトトナリタルガ結局彼ハ

委員會ノ仕事ノ基礎(Basis)ハ露支間ノ條約取極附圖ノミナルベキコトヲ明瞭ニ記載スル必要アルコトヲ主張スルト共ニ

其ノ他ノ資料ハ仕事ノ基礎ニアラズシテ補助的ノ性質ヲ有スルモノニシテ之ハ双方共委員會ニ自由ニ持出シ審議セシメ得ベキモノナルコトヲ言明セリ彼ハ之ハ委員會ノ仕事トシテ當然ノコトナルニ付特ニ明記スルノ要ナキコトヲ固執セリ即チ四ノ項ヲ委員會審査ノ基礎ハ露支間締結ノ條約取極及附圖タルベキコトトナスニアリ本使ハ之ニ對シ我方主張ヲ明カニシ一先議論ヲ切り上げ考究スルコトトシテ別レタリ

本電別電ト共ニ在歐各大使、滿、壽府へ轉電セリ

## (別電)

第一一八九號(至急)

モスクワ 8月21日發  
本省 8月22日前着

ハ委員會ハ日本一名滿洲一名ヲ一方トシ蘇聯二名ヲ他方トスル委員ニ依リ組織セラル

三、日滿側委員及蘇側委員ハ夫々十名ヲ超エザル専門家、技術員及通譯ヲ帶同スルコトヲ得

三、劃定ノ範圍ハ今回ノ紛争地域タリ土字界碑ヨリ第一記號迄トス

四、委員會ノ審議ノ資料ハ琿春界約同附屬交界道路紀文及附屬地圖(復數)<sup>(複カ)</sup>其ノ他ノ資料トス

五、(イ)國境線上ニ(二ハ)原則トシテ五百米ノ間隔ヲ以テ新中間界標ヲ建ツ必要ノ場合ニハ右中間界標間ニ適當ノ位置ニ補助界標ヲ建ツ

(ロ)國境線ヲ明瞭ナラシムル其ノ他ノ施設トシテ溝ヲ掘鑿ス

六、(イ)界標及施設ニ關スル調書及見取圖(ロ)國境地<sup>(圖カ)</sup>ニ二萬五千分ノ一(ハ)國境ノ一般記述(ニ)會議議事録ヲ作成ス

七、委員及輔佐員ハ相手國領土内ニ於テ身體及文書ノ不可侵ヲ享有シ課税及公課ヲ免除セラレ任務遂行上必要ノ都度相手國領土ニ立入ルコトヲ許可セラル尙制服ヲ着用シ其ノ身分ニ屬スル武器ヲ携帯スルコトヲ得又宿舍、通信、交通ニ關シ便宜ヲ供與セラルベシ

ハ委員會共同ノ費用ニ付テハ双方均等ニ分擔ス

ハ、委員會ノ議事ハ祕密トス委員會ノ議事又ハ業務ニ付發表  
ノ要アル時ハ双方委員ノ承諾ヲ經タル「コミニユニケ」  
ヲ以テ之ヲ爲ス

~~~~~

306 昭和13年8月23日 宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

瑣春条約付屬地圖を議論の基礎とする点で日
ソ間に見解の相違なき旨ソ連側に説明方訓令

本省 8月23日発

第五二八號(極祕)

貴電第一一八八號ニ關シ

往電第五一六號中ノ四、準則ノ末段「其ノ他ノ資料」トハ露、
支間ニ締結セラレタルモノハ「リ」ノ所謂條約取極及附圖
ニ限ラズ其ノ他ノ資料(例ヘバ界約ニ豫想セラルル細圖)ノ
如キモ双方ヨリ持出シテ準則ト爲スト言フ意味ニシテ又露
支間ニ締結セラレタルモノ以外ノ「其ノ他ノ資料」ハ
「リ」ノ言フ如ク仕事ノ基礎ニ非ズシテ單ニ補助的ノ性質
ヲ有ストシテ差支ナシ從ツテ「其ノ他ノ資料」ニ付テノ双
方ノ見解ニハ實際上相違ナシト認メララルニ付右ノ點篤ト

先方ニ説明セラレ尙其ニテモ納得行カザル場合ハ「其ノ他
ノ資料」モ補助的ノ性質ヲ有スルモノトシテ双方持寄ルト
ノ了解ノ下ニ冒頭往電四、準則ノ末項ヨリ「其ノ他ノ資料」
ヲ削除シ其ノ代リ「準則」ヲ「基礎的準則」トシテ話合ヲ
纏メラレ度シ
滿ヘ轉電セリ

~~~~~

307 昭和13年9月1日 在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

日ソ間の協議により作成した国境画定委員会  
方針案について

モスクワ 9月1日前発

本省 9月2日前着

第一二七三號(至急)

往電第一一八九號及往電第一二六九號ニ關シ

三十一日ノ話合ノ結果逐條左ノ通り

一、三、五、六(往電第一一八九號我方提案通り決定)

二、日滿側委員及蘇聯側委員ハ夫々十名(蘇案五名但シ「リ  
トヴィノフ」ハ六名迄ハ同意シ得ト述フ)ヲ超エサル專

門家、技術員、書記及通譯ヲ帶同スルコトヲ得(未決定)  
 四、琿春界約及同附屬地圖竝ニ露支代表ノ署名セル其ノ他ノ協定及地圖ヲ國境劃定委員會ノ仕事ノ基礎ニ置クヘキモノトス(決定)

七、委員及輔佐員ハ相手國領土内ニ於テ身体及文書ノ不可侵ヲ享有シ課税及公課ヲ免除セラレ任務遂行上ノ必要ノ都度相手國領土ニ立入ルコトヲ許可セラル但シ其ノ都度他方ノ許可ヲ取付ケ且双方ノ協議作成セル規則ヲ遵守スヘキモノトス尙制服ヲ着用シ其ノ身分ニ屬スル武器ヲ携帯スルコトヲ得又宿舍、通信ニ關シ便宜ヲ供與セラルヘシ(決定)

八、各方ハ委員會ノ各自ノ費用ヲ分擔ス劃定ノ技術的遂行ニ要スル費用ニ付テハ双方均等ニ分擔ス(決定)

九、委員會ノ議事ハ秘密トス委員會ノ議事又ハ業務ニ付發表ノ要アル時ハ双方委員ノ承諾ヲ經タル「コンミニユニケ」ヲ以テ之ヲ爲ス委員會ノ一方ノ参加者ノ不用意(「インデイスクレシヨン」ニ依リ新聞(「プレス」)ニ正式ニアラサル報道現ハレタル場合ハ他方ハ委員會ニ於テ打合ヲ爲スコトナク如何ナル聲明ヲ與フルモ自由ナルヘシ(後段ノ

ミ未決)

十、委員會ハ其ノ仕事ヲ二箇月以内ニ完了スヘキモノトス(未決)

滿ヘ轉電セリ

308

昭和13年9月3日

宇垣外務大臣より  
 在ソ連邦重光大使宛(電報)

# 国境画定委員会方針案修正箇所についての訓令

本省 9月3日發

第五五七號(極秘)

貴電第一二七三號及第一二六九號ニ關シ

一、我方提案第二項(輔佐員ノ數)ニ付テハ「夫々六名。ヲ越ヘサル」トシ差支ナシ但委員會ノ仕事開始後六名ニテハ不足ナルコト明トナル場合ハ双方協議ノ上適當數増加方夫々請訓スル了解(口頭ニテ可)ヲツケ置カレ度

二、我提案第九項ニ對スル「ソ」側ノ追加ニ付テハ更ニ必要ヲ主張セラレ度キモ先方カ固執スルニ於テハ同意セラレテ差支ナシ

三、「ソ」提案第十項「委員會ハ其ノ仕事ヲ二ヶ月以内ニ完

了スヘキモノトス」ハ「其ノ仕事ヲ」ト「二ヶ月」トノ  
間ニ「着手後」ナル句ヲ挿入シテ同意セラレ差支ナシ但  
シ此ノ點ニ關シ八月三十一日「リ」カ貴使ノ質問ニ對シ  
答ヘタル趣旨ノ了解(口頭ニテ可)ヲツケ置カレ度

四、其ノ他ノ點ニ付テハ貴電第一二七三號ノ通ニテ取運ハレ  
度

五、尙本件十項署名後ノ發表振りニ付テハ十項ノ内容ハ差支  
ナキモ形式ニ付テハ貴電第一二七四號ノ趣旨ニテ單一  
ノ了解カ成立テルモノトシテ事務的ニ輕ク取扱ヒ度ク殊  
ニ新聞等ニテ「協定」或ハ「署名」等ノ字句ノ用ヒラル  
ルコトヲ避ケ度キニ付貴地同盟、日日特派員等ヲ可然指  
導セラレ度シ尙「ソ」側ハ對獨關係等ニ鑑ミ或ハ相當大  
キク取扱フヤモ計ラレサルニ付本件了解ノ内容ヲ豫メ獨  
逸政府ヘ通報方手配スヘシ

六、又滿側ニ於テハ委員會成立後委員會ノ業務遂行上ノ細則  
(例ヘハ第七項ノ双方協議作成スヘキ規則、會議ノ用語、  
場所等)協議決定ノ爲瑋春又ハ煙秋(ノウオキエフスコエ)  
ニ於テ會合ヲ行ヒ度希望ナルニ付右日滿側ノ意嚮トシテ  
先方ヘ申入置カレ度

滿ヘ轉電セリ

~~~~~

309

昭和13年9月8日

在仏国杉村大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

防共協定は対ソ軍事同盟にあらずとの独国大
使よりリトビノフへの申入れに関する仏国紙
報道振りについて

パリ 9月8日後発

本省 9月9日前着

第五五五號

蘇發貴大臣宛電報第一二四二號後段ニ關シ

六日莫斯科發「アバス」ハ左ノ如キ報道ヲ爲セルカ八日
「タン」ノミ之ヲ掲載セリ

獨逸大使カ「リトビノフ」往訪ノ際張鼓峰事件ニ對スル獨
逸ノ態度ニ言及セリトノ外紙報道ハ莫斯科ニ於テ疑フ者ナ
ク又同會談ニ於テ同大使ハ日獨伊協定ハ何等對蘇軍事同盟
ヲ含ムモノニアラスト確言セル由ニテ在莫斯科日本大使館
ニ於テモ張鼓峰事件ニテ獨ヲ起タセ得ルトハ考ヘ居ラサリ
キ今回ノ會談ハ獨蘇關係斷絶ヲ避ケ將來ニ工作ノ餘地ヲ殘

サントスル獨政府ノ意圖ニ基クモノナリ
在歐洲各大使、壽府、致ヘ暗送セリ

~~~~~

310

昭和13年9月9日 在仏国杉村大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

張鼓峰事件への対応等に関連して防共協定に  
より独国が日本に求め得るのは精神的援助の  
みとする仏国紙論調について

パリ 9月9日後発

本省 9月9日夜着

第五五九號

「アバス」ハ八日東京發トシテ左記要旨報シタルカ往電第  
五五五號ノ如キ策動モアリ旁々獨逸カ日本ヨリ大ナル援助  
ヲ期待シ得スト憂慮シ居ルニ依リ獨逸ヲ牽制スルト共ニ探  
リヲ入レルカ如キ此ノ種報道ハ當地ニテ造ルコトアリ得ヘ  
キニ付爲念電報ス

獨逸大使ノ次官訪問ニ關シ東京外交界ニ於テハ獨逸側カ日  
本側ニ求メ得ルハ精神的の援助ニ限ラルヘシト見居ルカ理由  
ハ(一)防共協定ハ「イデオロギー」的ノモノニシテ今ノ所軍

事同盟ナシ張鼓峰事件ノ際ノ獨逸側態度ニ見ルモ明カナリ  
(二)張鼓峰事件ハ日本カ全力ヲ支那事變ニ奪ハレ居リ如何ナ  
ル場合ニモ對蘇戰爭ヲ避ケント決心シ居ルヲ明カニセリ(三)  
日本側一般カ歐洲政局ニ付有スル利害ハ事態カ東亞ニ於ケ  
ル日本ノ立場ニ如何ナル影響アリヤノ點ノミニ有スレハナ  
リ

獨ヘ轉電シ在歐洲各大使(土ヲ除ク)、壽府、致ヘ暗送セリ

~~~~~